
内子町環境報告書 2021

— キラリと光るエコロジータウン内子 —

発行にあたって

令和3年度は新型コロナウイルス感染症との闘いが続く一年でした。外出自粛、飲食店等の制限、また年間を通してのマスク着用など、今までにない状況の変化に戸惑われた方も多かったのではないかと思います。

一方で、国内の温室効果ガス排出量は12.1億トンと、前年比0.3億トンの減少となりました。減少の大きな要因はコロナ禍によるものと考えられており、今後、再び経済活動が活発になった後の変化が重要な課題となります。

昨年度10月の菅首相による「2050年カーボンニュートラル」宣言を踏まえて、政府は本年度4月、2030年度において、温室効果ガスを2013年度比で46%削減すること、さらに50%の高みに向けて挑戦を続けることを表明し、地球温暖化対策計画を改訂しました。この計画に沿って、地方自治体にもこれまで以上の対策が求められることになります。

町としましても、町民の皆さまと共に様々な環境問題に向き合い、「エコロジータウン内子」の実現に向けて、取り組みを加速してまいります。

令和4年3月

内子町長 小野植 正久

= 目次 =

発行にあたって	2.内子町環境基本計画
1.環境トピック	(1) 個別政策取り組み状況 6
[自然分野]	(2) 独自目標達成状況 15
(1) 自然観察会 1	3.うちエコ取り組み状況
(2) セミの抜け殻調査 2	(1) うちエコとは 33
(3) 内子親子旅 2	(2) うちエコ監査 34
(4) 小田川シクロクロス in 内子 2	(3) エコ見回り 39
[暮らし分野]	(4) 数値目標評価結果 40
(5) 食品ロス発生量調査 2	4.内子町エコオフィスプラン 43
(6) アースデイ in 内子 3	5.環境データ
(7) 緑のカーテンコンテスト 4	(1) 河川・土壌46
[環境教育分野]	(2) ごみ49
(8) 環境子ども会議 4	(3) 再生可能エネルギー52
(9) プラスチックごみ流出量調査 5	
(10) 幼稚園・保育園のエコ活動 5	

1. 環境トピック

[自然分野]

(1) 自然観察会

内子町はESD推進事業（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）の一環として、NPO法人内子未来づくりネットワークと協働し、自然観察会を実施しています。本年度は町内全ての小学校で水生生物の観察会を実施したほか、植物観察や小田深山での活動などを行いました。

昆虫や植物などの観察を通して身近な自然環境に対する興味・関心を育むことをねらいとし、今後も継続的に事業を実施していきたいと考えています。

—実施内容—

7月2日 中山川の水生生物観察
(立川小学校3・4年生)

7月15日 知清河原の植物観察
(内子小学校1年生)

7月30日 小田深山の自然観察
(内子放課後児童クラブ)

9月30日 小田川上流の水生生物観察
(小田小学校5・6年生)

10月7日 小田川の水生生物観察
(内子小学校4年生)

10月12日 麓川の水生生物観察
(石畳小学校4年生)

10月13日 小田川の水生生物観察
(五十崎小学校4年生)

10月15日 小田川の水生生物観察
(天神小学校4年生)

10月18日 小田川の水生生物観察
(大瀬小学校5・6年生)



知清河原の植物観察会（内子小）



小田深山の自然観察（内子児童館）



小田川上流の水生生物観察（小田小）



小田川の水生生物観察（大瀬小）

(2) セミの抜け殻調査

生態系保全の取り組みのひとつとして、クマゼミの抜け殻調査を行いました。

セミは種類によって好む生息環境が異なることから、その分布を調べることで環境の状態を知ることができるかとされています。前回の調査から10年が経過しており、次年度も継続して調べ、環境の変化などを明らかにしたいと考えています。



クマゼミの抜け殻

(3) 内子親子旅

自然資源や景観を生かした地域づくりを目的として、内子ツーリズム推進協議会の主催により2019年から「内子親子旅」が実施されています。「内子の自然と遊ぶ」をテーマに、季節に応じて家族で楽しめる里山体験プログラムを提供するもので、本年度は約200人の参加がありました。家族単位の少人数での体験を基本としていることから、コロナ禍においても人気が高く、豊かな自然に囲まれた内子町の魅力発信に、ますます期待が高まります。



夏の内子親子旅 川遊び

(4) 小田川シクロクロス in うちこ

小田川リバーサイド・ふれあい事業の一環として、豊秋河原の特設コースで「第9回小田川シクロクロス in うちこ」が開催されました。

昨年に引き続き参加者を県内在住者に絞っての開催でしたが、延べ約200人が参加し、冷たい雨が降る中で熱戦を繰り広げました。



第9回小田川シクロクロス in うちこ

[暮らし分野]

(5) 食品ロス発生量調査

内子町における食品ロスの発生量を知るため、国の補助事業を活用して実態調査を行いました。

内子町内では初の調査となります。

町内4地域(①内子:生ごみ収集地域、②内子:生ごみ収集地域以外、③五十崎:郊外、④小田:山間部)から約500kgの生ごみを回収し、内訳を調査。その結果、生ごみの78%が食品ロスでした。町民1人1日あたりに換算すると117.1gとなり、愛媛県平均の103gよりも多く食品ロスを出していることがわかります。

食品ロスは、食べ物を無駄にするだけでなく、必要以上に食品の加工や処分を行うことで余分な二酸化炭素を発生させ、地球温暖化を進行させる原因ともなります。今後も広報誌やホームページなど通じた啓発や学習会を通じて削減に向けて取り組みます。

(6) アースデイ in 内子

ECO-ZUKI 内子(エコ好き内子)と環境政策室との共催により、4回目となるアースデイの活動を行いました。

例年4月22日のアースデイ(地球の日)に合わせて実施しているものですが、コロナ禍のため4月のイベントが中止となり、11月に延期して、郷ノ谷川沿いのごみ拾いを行いました。

人目につきにくい場所に予想以上にたくさんのごみが捨てられており、あらためてポイ捨て禁止や5R推進の取り組みの必要性を実感しました。

—実施内容—

実施日 : 11月22日(土)

活動内容 : 郷ノ谷川沿いのごみ拾いと、拾ったごみの分別

参加者 : 27人(うち高校生以下3人)

収集結果 : ごみ6分類 56kg



回収した生ごみ



分別後



アースデイ in 内子



参加者と拾ったごみ

(7) 緑のカーテンコンテスト

家庭や事業所における夏季の省エネを推進し、地球温暖化対策に貢献しようと「第12回緑のカーテンコンテスト」を実施しました。

本年も環境 NPO サン・ラブのご協力により、ゴーヤ・ユウガオ・フウセンカズラの苗を無料で配布。コンテストには5件の応募がありました。

最優秀賞：内山美江子 様

ふたば整骨院 様

優秀賞：兵頭康子 様



最優秀賞：ふたば整骨院 様



最優秀賞：内山美江子 様

[環境教育分野]

(8) 環境子ども会議

町内の小・中学生を対象に令和3年度環境子ども会議を開催しました。昨年度に続きオンラインでの開催となりましたが、今治城自然科学博物館長の村上圭司氏に「プラスチックごみについて」講演をしていただき、私たちの生活に欠かすことのできない存在となっているプラスチックについて、ごみになった後の行方や生き物に与える影響などを分かりやすく教えていただきました。

アンケートには「なぜごみを捨てる人がいなくなるのか」「世界中の海にどのくらいのプラスチックごみがあるのか」「海岸のごみ拾いに参加したい」などたくさんの意見が寄せられ、多くの児童・生徒がプラスチックごみ問題に関心を持ち、真剣に考える機会になりました。

—実施内容—

実施日：2月9日(水)

内容：「プラスチックごみ問題について」

講師：今治城自然科学博物館

館長 村上圭司 氏

参加：町内の小・中学生 約250人



環境子ども会議の様子
(オンラインで講演を聞く児童たち)

(9) プラスチックごみ流出量調査

プラスチックごみの多くが陸域を発生源としていることから愛媛県は本年度、東・中・南予地方でそれぞれプラスチックごみの流出量調査を行いました。

町内では内子高校の協力により、令和3年12月～4年2月の3カ月間、市街地の小水路にトラップを設置。毎週1回ごみを回収し、量や種類を調査しました。コンビニの袋に入ったままのポイ捨てされたと思われるごみやタバコの吸い殻などが多く、調査した高校生からは「想像以上のマナーの悪さにショックを受けた」との声が上がりました。

内子高校ではこの他にも、総合的な探求の時間を利用してプラスチックごみ問題をテーマとした活動を実施しており、年間を通して環境問題についての学習を深めました。



トラップに引っかかったごみ



ごみの回収の様子

(10) 幼稚園・保育園のエコ活動

町内の幼稚園・保育園ではそれぞれ環境基本計画における「自然」「暮らし」「環境教育」の分野ごとに目標を掲げ、日々の保育や教育の中で環境の視点を意識した取り組みが行われています。

内子幼稚園と五十崎こども園では本年度「くつしたのはら」の活動を実施。靴下をはいて散歩に出かけ、草花の種が付いた靴下をそのまま植木鉢に植えて、どのような草花が育つのか観察しました。五城保育園では園内におけるエコレンジャーの活動をオリジナルの劇に仕立て、おゆうぎ会で発表。その他の園でも、クイズ形式でごみの分別学習会を実施したり、身近な生き物を飼育したりと、幼児期から自然や環境に対する興味関心を育む活動に取り組んでいます。



靴下をはいて河原を散歩



クイズ形式でごみの分別を学習

2. 内子町環境基本計画

令和2年度より「第2次内子町環境基本計画」の後期計画がスタートしました。個別政策の取り組み状況、および3つのプロジェクトにかかる独自目標の達成状況を掲載します。

なお、計画の詳細は内子町のホームページで公開しています。

(1) 個別政策取り組み状況

① 自然プロジェクト

基本政策1) 生物多様性の保全・創造

個別政策	指数・数値目標	取り組み内容	達成状況	担当部署	
★里地里山の保全	1	中山間地域等直接支払制度による農村景観保全活動の支援 集落協定への交付金：72,814千円	交付金 66,969 千円 第5期対策2年目。田から畑への転作が多く交付額が減少すると思われたが、新規で超急傾斜に該当する農地が多くあったため昨年度よりも交付額が増加した。だが目標達成のためには若手農家の参入が急務である。	○	農林振興課
	2	放置人工林ゼロを目指した取り組み（森林整備事業） 間伐面積：300ha 条件不利地等の森林整備：100ha	集約化施業による間伐面積 385ha、条件不利地の森林整備（切り捨て間伐）65ha。今後増加することが見込まれる森林整備を推進していく。	○	
	3	農地利用の最適化の推進 農業者年金加入促進：25件 家族経営協定の普及推進：121件	農業者年金 22 件。コロナ禍で経済的余裕が無く加入が進まなかったが、家族経営協定は 123 件と目標以上の実績となった。	○	農業委員会
	4	多面的機能支払交付金による農村景観保全活動の支援 活動組織への交付金：17,877千円	協定締結 16 件・交付金 17,663 千円 高齢化が進み取り組み農地は減少傾向にあるが、目標に対し高い水準で推移している。今後も集落総ぐるみで農地管理ができるよう推進していく。	○	農村支援センター
	5	林業施設の整備 林業整備事業：5路線 林業専用道整備事業：3路線 県営治山事業：5地区	林道 3 路線・林業専用 1 路線を実施し生産コストの軽減と輸送の効率化を進めた。県営治山事業は 5 地区を実施し、山地災害の未然防止を図った。	○	建設デザイン課
	6	農業生産基盤の整備 県単独土地改良事業：3地区 県営地すべり対策事業：2地区	県単土地改良 2 地区、県営地すべり対策 2 地区を実施し、輸送の効率化と防災機能向上を図った。	○	建設デザイン課

生き物の調査と生息環境の 保全・創造	7	生き物調査と保全プランの策定 調査2種と検討・選定 育成学習会：1回 保全プラン：部分作成	生き物調査2種（ホタル・セミ）、 育成学習会（トコロジスト講座）を 3回実施。保全プランの部分作成に は至らなかった。	○	環境政策室
	8	自然観察会の継続実施 自然観察会：3回以上 自治会活動の支援と啓発	自然観察会（水生生物観察、野鳥観 察）を2回実施。また館報にてホタ ルや野鳥観察などの記事を掲載し、 周知することができた。	○	五十崎自治 センター
小田深山の自然環境の 保全・活用	9	内子町山並保全・活用計画 植林・保護活動：2回 環境学習会等：3回 保全活動等：25回	植林・保護活動2回、環境学習会等 3回、保全活動5回。コロナ禍で活 動自粛が続いている。少人数での活 動を可能な限り実践しているが、さ らなる活性化に向けて拠点・人材づ くりなど体制を強化し、継続化を図 っていききたい。またアウトドアブ ームでごみの量が増えており、表示や 規制を考える必要がある。	△	小田支所

基本政策2) 自然資源や景観を生かした地域づくり

個別 政策	指数・数値目標	取り組み内容	達成 状況	担当部署	
★地域資源を活用 したブランド作り	10	トレーサビリティ推進、化学 肥料、化学合成農薬低減の取 り組み 土壌診断：600件	土壌診断602件 からり出荷者協議会主催の会など を通じて土壌診断のPRを行ってお り、目標をクリアできている。	◎	農林振興課 ・ 農村支援 センター
環境を活かした観光や人材の受け入れ	11	移住者受入れによる空き家活 用の推進 うちこ屋バンク成約件数：3件 移住相談時におけるエコロジ ータウン内子の周知：100%	うちこ屋バンクの成約8件、周知率 100%と、ともに目標を達成するこ うができた。	◎	総務課
	12	内子ねき歩き（まち歩き）事業 推進 参加者数：120人	コロナ禍で実績が上がらなかった。 参加者数1人	×	町並・地域 振興課
	13	内子町の自然や食、伝統文化 を生かした観光振興 環境客数：114万人 HP訪問者数：18万人 環境教育を取り入れた観光コ ースの開発：1コース以上（R6 まで）	観光客85万人、HP訪問者数15万 人 コロナ禍により観光客は減少。HP 訪問者数は概ね目標に近い数値で 推移している。環境教育を取り入れ た観光コースについては、関係機関 と連携を取りながら開発に取り組 んでいきたい。	○	

環境を活かした観光や人材の受け入れ	14	グリーンツーリズムの振興 GT 協会関連の宿泊：7,500 人 GT 協会関連の体験：1,000 人	感染対策による人数制限等で想定を下回った。 宿泊 2,815 人、体験 242 人	△	町並・地域振興課
	15	五十崎凧博物館の有効利用来館者数：2,100 人 体験講座参加者数：150 人	コロナ禍で来館者数は R1 年度の半数程度。体験講座も遠方からの参加は減少したが、町内・県内の学校を中心に新たな客層の参加があり、参加者数は増加した。 来館者数 992 人、体験講座参加者数 410 人	○	
	16	新深山壮整備と内子町山並保全・活用計画 小田深山来場者数：1.5 万人 活動参加者数：2,000 人	来場者数 1.7 万人、参加者数 400 人 コロナ禍で自然を楽しむ人の流れは今までに増え、ここをチャンスと捉えて広く PR していきたい。ツアー事業では、短時間ツアー等を工夫して実施することで新たなファンを獲得しており、全体数は横ばいではあるが、着実に小田深山の自然を広めることはできていると考える。	○	小田支所
環境活動を推進する 経済システム検討	17	未利用材を活用した経済循環（木こり市場プロジェクト） 木質バイオマス等の活用：200t	木こり市場出荷者が大幅に減少することが見込まれるため目標数値の見直しを実施。木質バイオマスの活用 117 t、60%の達成率となった。	○	農林振興課
景観や生態系に配慮した環境整備	18	景観行政 一美しい内子に向けた取り組みー 景観フォーラムの開催：1 回 広報紙による意識啓発や優良事例・協力企業紹介：1 回 板塀や生垣の普及：1 件	コロナ禍によりフォーラムの開催は見送りとなった。啓発記事 1 回。板塀等の普及は 3 件で目標以上に達成できた。	○	総務課
	19	小田川リバーサイド・ふれあい事業 イベント開催：4 回 はらっぱ基金運営委員会：2 回	コロナ禍によりイベント開催は小田川シクロクロスの 1 件のみであった。委員会は書面で 2 回開催した。	△	建設デザイン課
	20	老朽危険空き家除去事業 実施数：20 戸 事業費：16,000 千円	空き家除却事業の要望 22 戸、事前調査の結果、補助要綱に合致した 16 戸を実施。 事業費 12,585 千円	○	
	21	歴史的風致維持向上計画（H31 からの累積） 歴史的建造物の調査棟数：7 棟 歴史的風致形成建造物の活用：3 棟 伝統文化等の体験・WS：5 回	調査：累積 2 棟、活用：累積 1 棟、体験 2 回 概ね順調に進んでいる。これらを継続しながら歴史的建造物等の空き家解消や地域の活性化等を図り、良好な景観形成につなげたい。	○	町並・地域振興課

景観や生態系に配慮した環境整備	22	歴史的環境の保全・活用 木蠟資料館上芳我邸来館者数：3.3万人 町並関連ワークショップ参加者数：350人	来館者 11,295人、ワークショップ9人 コロナ禍により実績が上がらなかった。	△	町並・地域振興課
	23	学校跡地の活用 旧田渡幼稚園舎の活用：施設整備	国の補助金を活用して園舎を改修し、交流宿泊施設「たどビレッジ」が完成した。田渡地区自治会連絡会を指定管理者として R4.4.29 から宿泊業務を行う。	◎	小田自治センター

基本政策3) 健全な水循環の維持と利用

個別政策	指数・数値目標	取り組み内容	達成状況	担当部署	
生活排水対策	24	えひめ AI-1 の啓発：年1回以上	町HPにてえひめ AI-1 の紹介を行っている。イベント時の啓発は実施できなかったが、小学生によるエコ見回りでサン・ラブを訪問した際に、活動紹介を行った。	○	環境政策室
	25	下水道および合併処理浄化槽の普及率向上 水洗化普及率：87.6% 合併処理浄化槽普及率：56% 下水道および合併処理浄化槽普及率：68%	下水道水洗化率 86.6% 合併浄化槽普及率 54.4% 下水道・合併浄化槽率 64.4% 新築件数が少なく、設置・転換ともに伸び悩んでいる状況である。	○	上下水道対策班
源流と河川の環境保全	26	源流と河川の環境保全 河川美化一斉清掃：1回 肱川流域河川清掃：1回 水質検査(公共用水域・工場排水・最終処分場)：各1回	河川美化は、コロナ禍のため一斉実施の呼びかけは行わず、自治会・区ごとの実施判断として協力を依頼した。その他の活動は計画どおり実施することができた。	○	環境政策室
水を利用した地域づくり	27	水を利用した地域づくり事業の推進 学習会・フィールドワーク：年2回	年2回(アンケート・夏季キャンプ)の活動を実施。おおむね計画どおり進捗している。	◎	内子自治センター

②暮らしプロジェクト

基本政策1) ごみの減量

個別政策	指数・数値目標	取り組み内容	達成状況	担当部署	
★廃棄物の減量	28	5R推進事業 レジ袋辞退率：30% 食品ロス削減協力店登録数：5店舗 再利用の仕組みづくり： モデル事業の調査・検討 5R推進委員会：3回 ごみ排出量：685g/人・日	スーパー・道の駅等におけるレジ袋辞退率:82.2%、食ロス削減協力店3店舗(増減なし)、5R推進委員会2回(企画部会5回)、ごみ排出量751g 再利用の仕組みづくりでは、こども用品のリユースについて関係部署に聞き取りを行い、モデル事業の検討を進めている。	○	環境政策室

★廃棄物の減量	29	こども用品のリユース実施回数：13回	リユース実施 8回 コロナ禍のため中止もあったが定期的に実施。コロナ終息後は、イベントや参観日などに出向いての活動も検討している。	○	こども支援課
廃棄物の適正処理	30	廃棄物の適正処理の推進 啓発活動：2回以上 パトロール：12回以上 ごみ出し支援の仕組みの構築：支援策の協議・調整	広報・HPでの情報発信、パトロール活動を実施。新たに公用車5台に不法投棄禁止ステッカーを装着し、啓発に努めた。 ごみ出し支援は、地域包括支援センターと個別事案ごとに連携して対応に当たったが、具体策の協議には至っていない。	○	環境政策室

基本政策2) 資源の地域内循環

個別政策	指数・数値目標	取り組み内容	達成状況	担当部署	
地産地消の推進 (農の循環)	31	めざせ！自給率 100%チャレンジプラン 取り組み項目：1項目	取組項目や達成手法について内部で検討を進めているが、具体化には至っていない。	△	環境政策室
	32	学校における地産地消率（野菜・果物）：62%	地産地消率 55% 目標は下回ったが、着実に上昇している。（県内産を含めると 72%）	○	農林振興課 ・ 農村支援センター
拡大 (木の循環)	33	町産材の利活用事業 町産材利用木造住宅の建築促進事業補助金申請数：8件	申請 7 件で目標達成には至らなかった。町内の住宅着工件数も 36 件と減少している。木材価格が高騰しているため、住宅建設に慎重になっていると思われる。	○	農林振興課
バイオマスの利活用の拡大	34	バイオマスタウン構想の推進 木質ペレット：製造量 8,400 t・町内利用量 7,400 t BDF：製造量 1.65 万 L・利用量 1.65 万 L	ペレット製造量 6,500t・利用量 5,800t、BDF 製造量 16,379ℓ・利用量 13,056ℓ 製造量は昨年度を上回ったものの目標達成には至らなかった。利用量は昨年度をやや下回った。	○	環境政策室
	35	えひめ AI-1 の農業利用（竹堆肥） 対象種の検証と結果の公表：ブドウ	果樹（梨・キウイ・ブドウ・栗・ブルーベリー）を対象に土壌改良効果について実証実験を行った。5年継続の2年目	◎	農林振興課
	36	木質ペレットの利用拡大 木質ペレット消費量：1,000 kg	消費量 800kg ペレットストーブのある施設では積極的に活用しエアコンの使用抑制を図っているが、設置施設は減少傾向にある。ボイラーや床暖房等は現在、新規導入の予定なし。	○	こども支援課

基本政策3) 地球温暖化とエネルギーの地域内循環

個別政策	指数・数値目標	取り組み内容	達成状況	担当部署
★再生可能エネルギーの普及	37 再生可能エネルギーの普及事業（補助事業件数） 太陽光発電設備：5件 蓄電池：10件 燃料電池：1件 木質バイオマス利用設備：1件	補助事業件数の見直しを行い、燃料電池を除いて目標を達成した。	○	環境政策室
	38 再生可能エネルギーの導入事業 公共施設への導入・検討	導入に向けて、対象施設の基礎調査を実施した。	◎	
省エネルギーの普及	39 「緑のカーテン」事業 コンテスト応募数：15件	応募数5件で前年度より2件増えたものの目標達成には至らなかった。	△	
	40 省エネの啓発活動 省エネ診断：年1回	省エネ月間の啓発やウォームビズ・クールビズの取り組みは実施したが、省エネ診断は実施できなかった。	△	
適応策の検討	41 適応策の検討 HP等を通じた情報発信：1回	研修会に参加して情報収集を行っているが、情報発信には至らなかった。	×	

③環境教育プロジェクト

基本政策1) 子どもから大人まで切れ目のない学習活動の推進

個別政策	指数・数値目標	取り組み内容	達成状況	担当部署
(内子独自の学び場づくり) 子どもの環境学習	42 租税教室の実施 町内小・中学校で年間8回	コロナ禍のため2回の実施となった。今後については不透明であるが、できるだけ計画に沿って実施したい。	△	税務課
	43 自然体験学習の実践 小田深山宿泊体験参加児童数：127人	コロナ禍で宿泊体験を行うことはできなかったが、各校単位で遠足型の体験活動を小田深山で実施し、学習を深めた。	◎	学校教育課
	44 子どもたちへの環境教育の実践 環境こども会議出席児童数：230人 環境副読本配布児童数：120人	こども会議出席児童数254人、配布児童数123人 コロナ禍で集合しての環境こども会議は中止となったが、Webシステムを活用して講演会を実施した。環境副読本は新4年生を対象に配布しており、ふるさとの環境学習に寄与している。	◎	
	45 子どもの環境学習 学習会：10回	学習会8回 コロナ禍で事業の縮小や中止があったが、各施設で身の回りの環境について学習の場を持つなど、積極的に努力している。	○	こども支援課

(内子独自の学び場づくり) 子どもの環境学習	46	内子東自治センター管内での環境学習会事前観察会：2回	コロナ禍で1幼稚園のみ、来館して自然環境に関する学習を行った。	△	内子東自治センター
	47	エコセミナー：年11回	年間5回実施 コロナ禍により宿泊・調理を伴う事業は見送ったが、可能な範囲で実施した。次年度以降は感染状況等を踏まえて内容を再検討する必要がある。	△	大瀬自治センター
(実践に結び付く環境学習会) 大人の環境学習会	48	大人の環境学習の推進学習会：年3回 情報発信：年12回	大人対象の学習会5回、「広報うちこ」暮らしのエコロジーにおける情報発信12回	◎	環境政策室
	49	地域環境学習 各自治会における学習会など：年1回	自治センター研究大会や子どもと高齢者による七草探しの交流活動などを通じて、環境学習を行った。	◎	内子自治センター
	50	東自治センター管内サロンでの環境学習会 管内16サロンのうち年3カ所以上	コロナ禍によりサロンに出向いて活動することができなかった。	×	内子東自治センター
(実践に結び付く環境学習会) 大人の環境学習会	51	自治会環境学習 自治会と連携した学習会：6回	コロナ禍で学習会は実施できなかったが、各自治会が独自に花いっぱい運動や河川清掃などを行っている。	△	大瀬自治センター
	52	センター報への環境学習記事掲載：年2回以上 パネル展示：年2回以上 小学生・教員対象の巨木巡り：年1回以上	センター報は、6月号「クマゼミの抜け殻採取」、10月号「脱炭素社会の実現」、3月号「食品ロス」に関する記事を掲載。ロビー展示は、常設で環境啓発のチラシを掲示している。巨木巡り9月に実施。	◎	小田自治センター
様々な学習会と連動した環境学習(ESD)	53	持続可能な社会づくりに向けた学習活動の推進 学習会：年1回以上	ESDコーディネーターと連携し、幼稚園・保育園、小学校等で、自然観察会9回、環境学習会10回実施	◎	環境政策室
	54	ドイツ等環境保全先進国の取り組み紹介の機会提供 報告会：2回	海外派遣事業が中止となり、報告会は実施できなかった。アースデイのごみ拾いに国際交流協会からも参加・協力した。	△	自治・学習課

基本政策2) 地域・自治会の環境活動の推進

個別政策	指数・数値目標	取り組み内容	達成状況	担当部署	
★ 地域づくり 環境モデル	55	環境学習会・支援:2団体以上 モデル地区設置の検討、ごみ出し支援:調査検討	学習会・支援は3自治会で実施(ごみ分別学習)。モデル地区設置・ごみ出し支援策の検討については具体化が進んでいない状況である。	△	環境政策室
コミュニティビジネスの展開	56	コミュニティビジネスの推進 補助支援団体(累計):3団体 環境活動団体事例紹介:年1回	城廻自治会(花の苗販売)・中川自治会(よろずや中川の環境整備)などの取り組み支援を行っている。	○	自治・学習課
	57	城廻自治会による花の苗販売の支援 受注・配達件数:年20件	春苗20件・秋苗20件の注文受付、配達等の支援を実施した。	◎	内子東自治センター
	58	コミュニティビジネス事業の普及拡大 啓発活動:年2回以上	小田地区自治会連絡会において、コミュニティビジネス事業の積極的な活用を呼びかけた。地域での共同作業などは継続している。またR4年度から交流宿泊施設「たどビレッジ」の運営を田渡地区自治会連絡会が行う予定である。	○	小田自治センター

基本政策3) ネットワークづくり

個別政策	指数・数値目標	取り組み内容	達成状況	担当部署	
★ ネットワークづくり	59	環境に関する活動組織、個人等のネットワーク強化 情報交換の場づくり: 改善・運用 環境会議:年1回	情報交換の場づくりは実施できなかった。環境会議は小規模開催となったが3月に実施することができた。	△	環境政策室

3つのプロジェクトにかかる独自目標達成状況

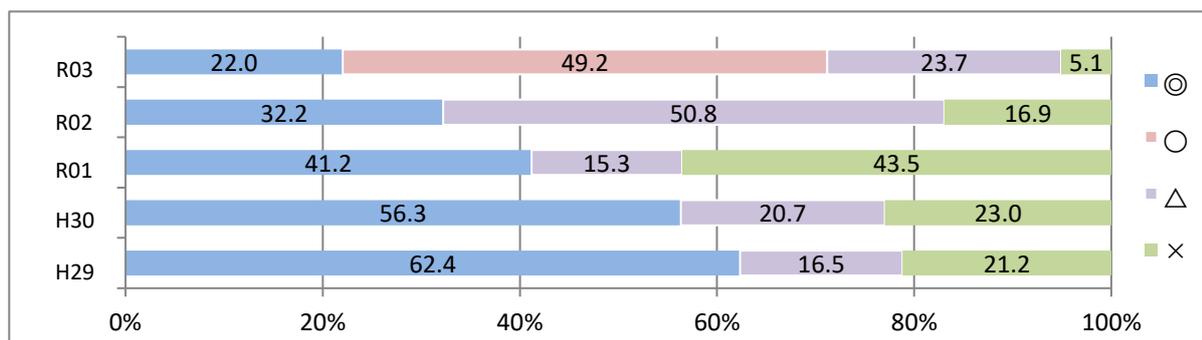
	◎		○		△		×		計	
		%		%		%		%		%
自然	4	14.8	18	66.7	4	14.8	1	3.7	27	100.0
暮らし	2	14.3	8	57.1	3	21.4	1	7.1	14	100.0
環境教育	7	38.9	3	16.7	7	38.9	1	5.6	18	100.0
計	13	22.0	29	49.2	14	23.7	3	5.1	59	



- ◎ 計画どおり実施できた
- 一部実施できた (半分以上)
- △ 一部実施できた (半分以下)
- × 実施できなかった

目標達成率の推移

		H29		H30		R1		R2		R3	
			%		%		%		%		%
自然	◎	26	70.3	24	61.5	16	41.0	9	33.3	4	14.8
	○									18	66.7
	△	4	10.8	4	10.3	7	17.9	15	55.6	4	14.8
	×	7	18.9	11	28.2	16	41.0	3	11.1	1	3.7
暮らし	◎	12	46.2	10	38.5	8	33.3	3	21.4	2	14.3
	○									8	57.1
	△	7	26.9	10	38.5	4	16.7	8	57.1	3	21.4
	×	7	26.9	6	23.1	12	50.0	3	21.4	1	7.1
環境教育	◎	15	68.2	15	68.2	11	50.0	7	38.9	7	38.9
	○									3	16.7
	△	3	13.6	4	18.2	2	9.1	7	38.9	7	38.9
	×	4	18.2	3	13.6	9	40.9	4	22.2	1	5.6
計	◎	53	62.4	49	56.3	35	41.2	19	32.2	13	22.0
	○									29	49.2
	△	14	16.5	18	20.7	13	15.3	30	50.8	14	23.7
	×	18	21.2	20	23.0	37	43.5	10	16.9	3	5.1



(2) 独自目標達成状況

NO	部署名		目 標	評 価	達成率
1	総務課	自然	移住希望者に対し、内子町の環境や景観に関する取り組みを紹介する。	移住相談の際に、環境や景観に関する取り組みを紹介した。	100
		暮らし	区長便の梱包には必ずコピー用紙包装紙などの使用済み用紙を利用する。	目標どおり実施した。また以下2点に取り組んだ。 ○物品(文房具等)のストックコーナーを設置して管理を一括化することにより、無駄な購入を無くし、グリーン購入の促進を図った。 ○古いコピー用紙等を幼稚園・保育園の落書き用に提供している。	100
		環境教育	すべての地区集会所の指定管理者に対して、環境に配慮した取り組みに関する啓発を行う。	目標どおり実施した。	100
2	会計課	自然	2階トイレ・湯沸かし室掃除当番の際には、必ずえひめAI-1を使用する。	トイレの修繕が入り、異臭問題もほぼ解消されたため、必要時に使用した。なおえひめAI-1の配布分が品切れとなり、確保が難しいことがたびたびあった。	100
		暮らし	買い物の際は週1回以上マイバックを持参する。家族等にも啓発する。	レジ袋有料化の影響もあり、マイバック利用が促進されている。	100
		環境教育	指定金融機関の駐在職員にも理解いただき、年間を通して環境配慮の取り組みに協力願う。	仕事等で発生したゴミを週末に持ち帰る等、継続して協力をいただいている。	100
3	住民課	自然	窓口用封筒について、使用済み封筒にリサイクル封筒である旨を記載した紙を貼るなどして、再利用率80%以上を目指す。	使用済み封筒だけでなく、新聞紙で作成した封筒をリサイクル封筒として使用した。それにより使用頻度が高いA4サイズは再利用率100%を達成したといえる。小サイズの封筒は、以前在庫分を使用しているため再利用率は低かった。	100
		暮らし	課職員に対してマイバック持参を周知し、持参率80%以上を目指す。	定期的な周知を行い、おおむね達成することができた。	100
		環境教育	職員研修に年1回以上参加し、職員の全体的なレベルアップを図る。	職員数が少ないため業務上参加できないこともあったが、できる限り参加することができた。次年度はより積極的に参加していきたい。	80
4	うちこ福祉館	自然	玄関横設置のえひめAI-1利用促進のため、週1回程度、トイレ掃除の際などに積極的に利用する。	目標どおり実施した。	100
		暮らし	機能回復訓練室南側の窓枠一面において、緑のカーテンを実施する。	目標どおり実施した。	100
		暮らし	わいわい喫茶で発生したコーヒーのガラは、すべて肥料として使用する。(最大10回)	目標どおり実施した。(5回実施)	100
		暮らし	健康講座、わいわい喫茶等の調理時に出た廃油は、すべてサン・ラブに回収を依頼し、リサイクルに努める。	目標どおり実施した。	100
		環境教育	貸館利用者に環境配慮チェックシート記入を促し、記入率100%を目指すと同時に、環境配慮の実践を指導・徹底する。	目標どおり実施した。	100
		環境教育	城廻自治会のコミュニティビジネスに協力し、年2回、館周辺のプランターに植栽を実施する。	目標どおり実施した。	100

5	参川 福祉館	自然	調理室やトイレ清掃の際には月2回、えひめAI-1を使用する。また館内外2カ所の掲示板にパンフレットを掲示するとともに、えひめAI-1を玄関に常備し、来館者や周辺地域住民にも利用を呼び掛ける。	目標どおり実施した。	100
		暮らし	調理室の使用で出た生ごみは、すべてプランターで堆肥化しごみの減量化に努める。	目標どおり実施した。	100
		暮らし	室温を下げて電気使用量の低減を図るため、事務室の窓全体に緑のカーテンを2m設置する。また来館者や周辺地域住民にも取り組みを呼び掛ける。	目標どおり実施した。	100
		環境教育	館掲示板に環境に関する資料を年2回以上掲示し、利用者や周辺住民に啓発する。	目標どおり実施した。(大会議室窓ガラスに掲示)	100
		環境教育	館利用団体への説明会、健康教室、サロン、子ども会活動の際に各1回、町や参川福祉館の環境に関する取り組みなどについて説明する。	目標どおり実施した。	100
6	税務課	自然	所属する自治会(地域づくり担当職員の担当自治会も含む)の地域づくり計画書に掲げる自然環境保全活動や自然災害防災活動への参加率を100%にする。	河川清掃、水路清掃などに参加した。	100
		暮らし	裏面利用が可能な用紙は、必ず裏面を印刷・メモ用紙等に利用し、用紙の節約に努める。	目標どおり実施した。	100
		環境教育	小・中学校で開催する租税教室のすべてにおいて、「地球温暖化対策のための税(通称:環境税)」が設けられ環境保護に役立てられている事実を伝える。(年8回を計画)	年8回の計画であったが、コロナ禍により2回の開催となった。	25
7	保健 福祉課	自然	車を利用する場合、軽自動車・ハイブリッド車の利用量を全体の80%以上にする。	課管理車両の総走行距離のうち、軽自動車の利用が89.6%となった。	100
		暮らし	機密文書を破棄するとき、シュレッダー処理率を90%以上にする。	認定審査会等の機密文書をシュレッダー処理しており、目標を達成することができた。	100
		環境教育	窓付き封筒を使用するとき、環境ロゴ等を記載した封筒の使用率を50%以上にする。	前年度は、環境ロゴ等の記載されていない封筒の在庫があったが、今年度は在庫がなくなり環境ロゴが記載されたものを使用した。	100
8	保健 センター	自然	湯沸かし室(週1回)、調理室(使用時)の清掃の際にえひめAI-1を利用する。	毎週金曜日に当番が実施している。調理室は掃除のあと、排水口に流している。	100
		自然	保健センター主での調理実習の際、旬の食材を利用し、地産地消に心がける。	野菜等がいる調理実習の場合、からりやフジの直産売り場を見てから購入をしている。	100
		暮らし	コピー機のトレイに裏面使用可能な用紙を常時セットし、使用する。	手差しに常時裏紙可能用紙を入れて印刷ができるようにし、手元資料等は裏紙を使っている。	100
		環境教育	健診の通知をする封筒や健康教育の資料に独自のエコイラストを使用する。	環境政策室にデータが無く、何回も印刷し過ぎて鮮明で無いことから今年度は未実施である。	0
		環境教育	保健センター内に内子町環境基本計画に関するチラシを展示する。	3カ所に掲示している。	100

9	こども支援課	自然	暑さ対策としてグリーンカーテン等の自然を活用する。	暑さ対策としてすだれを活用。窓や入口のドアを開け自然の風を取り入れるなどの対応を行った。	100
		暮らし	年間を通じて、片面再利用用紙の箱を設置し、裏紙利用による印刷用紙の節約に努める。	箱を設置し裏紙再利用を行った。両面使用した用紙は再利用できるようシュレッダーした。	100
		環境教育	節電・節水に関する注意喚起をさくらんぼ教室参加の子どもと作成することで資源の大切さを学ぶ場とする。	個別教室利用の子どもと節電・節水の話をしたが、注意喚起の作成は準備中となった。	80
10	建設デザイン課	自然	生態系に配慮した河川環境の整備を民間団体と協働して年1回以上行うとともに、近自然型工法を推進することで、環境に配慮した工事を行う。	自治会や各種団体と連携して、ミニ小田川と郷の谷川にて除草等の清掃活動を行った(年3回)。また「はらっぱ基金」を活用し、小田川生物調査を行うなど、環境に関して理解を深める活動を行った。	100
		暮らし	内子町産の木材使用を促進するため、2施設の公共建築物の木造化を推進する。	建築物の更新に関して、内子町産材を使用した木造建家の建築を行った。(平岡3部消防詰所・和田自治会館・平野自治会館)	100
		環境教育	新規の上下水道に係わる手続きの際には、すべてのお客様に対してえひめAI-1の効果を紹介し、利用促進および消費量の増加を図る。合併浄化槽を新設する場合も同様とする。	上下水道および合併浄化槽の手続きの際に、えひめAI-1の説明を実施した。(実施24件)	100
11	環境政策室	自然	他部署の自然プロジェクトを1つ以上サポートする。	幼稚園・保育園・小学校等の自然観察活動などをサポートした。	100
		自然	住民団体等と協働し、生き物観察会や保全活動を2回以上実施する。	うちみづネットと協力し、生き物観察会などを9回実施した。	100
		暮らし	他部署の暮らしプロジェクトを1つ以上サポートする。	保育園や小学校のエコ見回り隊の実施について、サポートを行った。	100
		暮らし	ごみ処理に関する資料を作成し、年度末までに1回町民に配布する。(ゴミ収集日程表に添付)	12月の回覧でゴミ収集日程表と一緒に全世帯へ配布した。	100
		環境教育	他部署の環境教育プロジェクトを1つ以上サポートする。	小学校等においてエコ学習会における講師や資料提供などのサポートを行った。	100
		環境教育	自治会や環境団体が参加する「内子発環境会議」を年1回開催する。	コロナ禍により縮小版となったが、3月に「省エネDIY」をテーマに実施した。	50
12	内子総合窓口センター	自然	サン・ラブ提供のえひめAI-1を年間50本以上住民に配り、環境保全に努める。	定期的に補充していただき、多くの住民に使用していただいている。	100
		自然	内子分庁舎周辺の草木の適正な管理に努める。	草引きや木の剪定を定期的に行っている。(大きな木は年1回程度)	100
		暮らし	サン・ラブ提供のゴーヤを育てて緑のカーテンを設置する。苗は住民へ配布し「緑のカーテン事業」を広く普及させることに貢献する。	目標どおり実施した。	100
		暮らし	毎朝水道メーターをチェックし、漏水の有無など使用量に注意する。	問題なく管理できた。	100
		環境教育	転入者に対して、ゴミの出し方の冊子を配布して説明し、環境への配慮について案内する。	すべての方に説明を行った。	100

13	町並・地域振興課	自然	町並・地域振興課に関する自然資源(小田川、小田深山、泉谷地区棚田など)を有効活用した行事などを開催し、町内外の方に内子町の自然について知っていただくよう努める。	グリーンツーリズムをはじめ、町内外の方が内子町の自然に親しめるイベント等を開催し、自然への興味・関心を深めていただけるよう努めた。	90
		暮らし	年間を通じて休憩時など業務に支障がない範囲で電気の消灯に努める。	始業前や休憩時の消灯に努めた。	100
		暮らし	年間を通じて片面再利用用紙の箱を設置し、裏紙利用による印刷用紙の節約に努める。	裏紙を積極的に活用し、印刷用紙の節約に努めた。	100
		環境教育	4施設(内子座・商いと暮らし博物館・上芳我邸・凧博物館)で環境に関する資料を掲示し、利用者の意識啓発を行う。	4施設に掲示し意識啓発に努めた。	100
14	八日市・護国町並保存センター	自然	木蠟資料館上芳我邸において、木蠟の原料となるハゼノキへの理解を深める展示や企画を年1回以上開催するとともに、ハゼノキの実験圃場を整備・管理し、愛媛県固有種である「オオハゼ」の種の保存に努める。	毎月定例の木蠟クレヨンづくりのワークショップおよび年1回の樫染めワークショップを開催。実験圃場および上芳我邸のハゼノキの管理を行った	100
		暮らし	町並保存会で年4回以上伝統行事を再現し、行事の成り立ちや地域に根ざした暮らしについて理解を深めるとともに、来訪者に伝える。	コロナ禍により行事を実施できなかった。	—
		暮らし	保存センターにおいて、伝統的建造物の環境負荷の低さを伝える展示を行う。	センター内で通年展示を行っており、小・中学生などの見学の際に展示物の解説を行った。	100
		環境教育	学生や来訪者を対象に木蠟や町並み保存に関わる体験学習を年2回以上実施し、内子の製蠟業の歴史と環境負荷の低い木蠟や伝統的建造物の良さを伝える。	内子中学校の蠟しぼり体験、内子幼稚園の木蠟クレヨンづくり体験を実施した。	100
15	ビジターセンター	自然	小田川や小田深山溪谷の自然環境、伝統的建造物群保存地区をはじめとする内子独自の景観を活かした誘客に関わる内容を、年2件は既存の事業に盛り込む。また環境をテーマにした視察対応の要請が生じたときは、環境政策室や関係機関と連携した独自のプランで受け入れる。	小田川や内子の自然の魅力を伝えるサイクリングイベントを実施した。	90
		暮らし	温暖化対策・省エネルギーの普及として、3km圏内の移動手段は、なるべく自転車を利用するように努める。	できる限り努めたが、体調不良時や天候不良時などは車を利用したときもあった。	100
		環境教育	地域の環境教育の意識向上に寄与できるよう、食のイベントではマイコップの推進やごみの分別を行う。特に諸団体と協働で行う事業は、自然美の見せ方や付き合い方を学び、その内容を広く発信する。	食のイベント等がなく、実施に至らなかったが、関係団体と協力し、自然環境の魅力を伝える旅行商品を造成し、内容をHPに掲載した。	90

16	農林 振興課	自然	木こり市場プロジェクトを推進して森林保全と地域活性化を目指すため、木こり市場での木材取り扱い量の現状維持を目指す。	プロジェクトの年間取扱量200tの目標に対し、117tの実績となった。	59
		暮らし	廃プラスチックおよびビニールをJAと協力して回収し、リサイクルを推進するために、廃プラスチックの取り扱い量の現状維持を目指す。	目標どおり実施できた。	100
		環境教育	農業委員会定例会で年1回以上は啓発資料を使って学習会を開き、環境問題について学習する。	定例会で「今日からはじめよう。ごみダイエット宣言」のパンフレットを配布し、町のごみ処理状況等を説明し、協力をお願いした。	100
17	学校 教育課	自然	小田深山宿泊体験(町内小学5年生対象)を実施し、小田深山の自然について体験学習し、学習した内容を各家庭まで広げていく活動を行う。	コロナ禍のため事業を実施できなかったが、既存予算を活用して各校単位で独自にふるさと学習を実施した。	70
		暮らし	ノーマイカーデーを月1回以上実施する。	通勤が遠方からの職員が多いため月1回の実施は困難であった。懇親会がある日などには乗り合わせに努めた。	50
		暮らし	年1回、環境子ども会議の実施により、町内外に情報を発信し、内子町の取り組みを紹介することによって、環境教育による交流を図る	従来型の環境子ども会議は新型コロナウイルス対策により実施できなかったが、web会議システムを活用し、プラスチックごみ問題をテーマに講演会を実施。小・中学生254人が学習した。	80
		環境教育	環境副読本の活用を図り、学級便り等で家庭への情報発信するとともに、研究を深めていく。	環境副読本は新4年生全てに配布を行った。環境に関する情報発信は、学校単位で対応した。	100
18	自治・ 学習課	自然	環境・景観保全など、自然と共存するための地域づくり事業実施を、自治センターを通じて年1回以上自治会へ呼びかける。	自治センターでは、水生生物調べや野鳥観察会などの環境学習会を毎年実施している	50
		暮らし	開催する会議にて、可能な場合はマイ箸マイコップ、リユース食器、または備品使用を推進する。	コロナ禍により、飲食を伴う会議等は実施できなかった。昼食時にはマイ箸を使用している職員も見受けられる。	—
		環境教育	青少年海外派遣事業を通じて、ドイツなどの環境保全先進国での取り組みを紹介する機会を年1回以上つくり、町内への拡大を図る。	青少年海外派遣事業はコロナ禍により未実施となった。国際交流協会からアースデイ等に参加・協力した。	—
19	議会 事務局	自然	年間を通じて議員への資料提供は、極力両面印刷物を配布する。	両面コピーで議員に配布した。	100
		自然	タブレット導入により極力、紙の印刷を控える。	3月議会定例会の委員会資料は、すべてタブレットで提供した。しかし一部議員には紙資料を提供した。	90
		暮らし	会議時の弁当は、すべてリユースできる弁当箱使用者へ依頼する。	弁当注文の際は、毎回リユースできる業者に依頼した。	100
		環境教育	議場見学に訪れる小・中学生に対し、課の環境に関する取り組みを1回以上説明する。	クイズで環境の問題を出題し、環境に少しでも関心をもってもらえるようにした。課の取り組みも紹介した。	100

20	小田支所	自然	○小田深山の緑化推進(広葉樹の植栽)…年1回以上 ○自然体験型イベントの実施 …年3回以上	○3月に植樹を行った。 ○小田深山でのウォーキングイベントなど、多数行った。	100
		暮らし	○緑のカーテンの推進(苗の配布100本以上)と小田支所における実施 ○えひめAI-1の配布(年間150本以上)	○用意された苗をすべて配布した。小田支所においてもゴーヤ等の苗で緑のカーテンを実施した。 ○えひめAI-1は月に約30本のペースで配布した。	100
		環境教育	すべての転入者へ、環境基本計画の取り組み周知、資料配布を行う。またごみの分別について啓発を行う。	転入者にエコロジータウンうちこのパンフレットを配布するとともに、自治会加入の案内、ごみ分別表、収集日カレンダー等を配布し、周知を行っている。	100
21	内子保育園	自然	子どもたちと一緒に作った腐葉土を年3回の土づくりに利用し、園の畑での野菜作りに継続して活用する。	腐葉土づくりが上手くいかず、できていた分は活用できたが、3回の目標は達成できなかった。	80
		自然	子どもと一緒に園の畑で野菜を栽培し、収穫した野菜を給食で活用する。	コロナ禍で食事についての配慮を強いられたこともあり、積極的な活用はできなかった。	50
		自然	4期に1回以上、小田川や町並み散策に行き、清掃活動や自然観察を行う。	コロナ対策に応じて園外活動を制限していたこともあり、実施することができなかった。	0
		暮らし	毎月1回クリーンデイを設け、園の美化に努める。集めた草葉は腐葉土作りに活用する。	定期的な実施はできたが、毎月の活動とはいかなかった。今後は計画的に進めていきたい。	80
		暮らし	アルミ缶・廃油の回収日を月2回設け、地域や保護者に呼び掛けて回収する。	地域・保護者への周知は園だよりなどを活用し、進んでいる。コロナ禍で施設内立ち入りの制限などがあり、集め方・場所は検討課題。	90
		環境教育	エコに関する集会を年5回以上開催し、楽しみながらエコ活動を推進する。	コロナ禍で集会を制限したこともあり5回の実施は叶わなかったが、各クラスでエコの紙芝居を読むなどして推進した。	80
		環境教育	年4回以上、町並み散策に出向き、幼児期の環境教育に力を入れる。	コロナ禍で園外活動を制限したこともあり、町並み散歩の機会は少ししかもてなかった。	50
環境教育	野菜や草花の世話や自然探索、清掃活動などを通じた子どもの気付きや成果を、年1回以上報告する機会を設ける。	全員が集まった報告の機会は持てなかったが、各クラス単位での気付きを話し合うなどする機会は設けた。	80		
22	五城保育園	自然	畑で野菜を栽培し、園児と一緒に収穫・調理したり、給食の食材に活用したりするなど、年8回以上、食育の時間を設ける。	園児と一緒に野菜や米を栽培し、収穫した野菜を給食材料にしたり、おにぎりパーティーをしたりして、食育に繋がった。食育教室は、町の栄養士に、3食食品群や手洗いの仕方、体とうんちとのつながり等について、年長児が学んだ。	100
		自然	15㎡のグリーンカーテンを作り、電気代の削減に努める。	朝顔やゴーヤ等で緑のカーテンをつくり、ある程度は涼くなったが、電気代の削減には至らなかった。 (使用量は削減)	100
		自然	夏場は、プール遊びをする日とウォータースライダーをする日を決めたり、プール遊びで使用した水は畑や花壇の水やりで毎回利用したりすることで、水道代の削減に努める。	熱中症予防のためウォータースライダーは行わず、プール遊び・水遊びのみ行った。使用した水は毎回、畑や花壇の水やりで利用し、水道代の削減に努めた。	100

22	五城 保育園	暮らし	家庭や給食室で使用した廃油を回収し、廃油石鹸を作り希望者に配布する。	廃油を回収して、廃油石鹸をサンラブからいただき、希望者に配布したり、園でも活用している。	100
		暮らし	家庭で不要になった物は、保護者と連携を図り、地域の東自治センター文化祭でフリーマーケットに出店することで資源の循環を目指す。	うちこのフリマに保護者がくじ引きを出店し、夏祭りごっこ等で景品にしていた物を、くじ引きの景品にして、資源の循環を目指した。	100
		暮らし	月1回「みんなできれいデー」で、園児と共に園内の掃除、草引き、散歩時のごみ拾いなどをします。実施日には反省や評価を記入して、目標達成に努める。	月1回「みんなできれいデー」に、園庭の草引きや石拾いなど園児たちと行った。実施日には反省や評価を記入し、目標達成に努めた。	100
		暮らし	床暖に使用するペレットの使用済み灰を畑にまいて肥料にしたり、家庭菜園をされている希望者に配布したりし、すべてリサイクルする。	床暖用ペレットの使用済み灰を畑にまいて肥料にしたり、家庭菜園をされている希望者に配布したりして、すべてリサイクルに努めた。	100
		環境教育	園用「エコ便り」を年2回配布して、廃油やアルミ缶、ペットボトルの蓋などをリサイクルしている状況を知らせ、リサイクルに協力してもらう。	エコ便りは年1回の配布となった。	50
		環境教育	年長児が「あやめエコレンジャー」となって、園内の水、電気、ミックス紙のエコ見回り隊を週1回行い、その活動の様子など「エコ便り」や掲示板で年1回以上紹介する。	年長児がエコ見回り隊を週1回(金曜日)実施。今年度は、おゆうぎ会でエコに関するオリジナル劇を演じ、補助者の方々にもエコについて考えていただく場となった。	100
		環境教育	年長児が東自治センターへエコ見回り隊に行ったり、散歩の際に落ちているゴミや空き缶などを拾って持ち帰り、分別したりして、エコに対して興味、関心を持つ機会をつくる。	コロナ禍で外部へのエコ見回りは実施できなかったが、散歩時にはごみ拾いを心がけ、園に持ち帰り、分別してエコに対して興味・関心が持てるようにした。	80
23	大瀬 保育園	自然	年5回以上自然と関わり、生き物・植物・気候などに触れる活動を通して自然の大切さを知り、遊びや生活に活かす。	漁業組合員によるアユを中心にした地域の川に住む生き物のお話会や川遊びなどを実施し、地元の自然や生活に親しんだ。また年間21回の散歩に出かけ、季節による自然の変化を感じたり、自然物を持ち帰って遊びに取り入れたりした。	100
		暮らし	友だちと一緒に野菜を作り、食べることで、生命のつながりを知り、感謝の気持ちを持つ。	スイカ・カボチャ・トウモロコシ・トマトの苗を植えて育てた。当番で水やりをしながら、友だちと一緒に収穫や採れたての野菜を食べることを喜んだ。 保護者からいただいた稲の苗を植え、米を収穫した。粳摺りなど、子どもたちと時間をかけて過程を楽しみながら、炊いて食べた。	100
		暮らし	雑草や落ち葉などでたい肥作りをする。	雑草や落ち葉を集めて、たい肥作りをした。ミミズや幼虫、ダンゴムシなどが見られ、植物がたい肥になっていく様子を体験した。できた土を畑に混ぜて利用した。	100
		暮らし	グリーンカーテンづくりをする。	パッションフルーツのグリーンカーテンを試みたが、夏場にはあまり伸びなかった。	70
		環境教育	月1回「エコの日」を設定し、子どもたちとエコについて話し合ったり、活動したりする。(園庭の掃除、エコ見回り隊、分別の仕方、エコ集会など)	年長児と一緒に園庭の草引きや各クラスの紙ごみを集めをした。	80
		環境教育	エコ活動の実践の様子を年2回掲示し、保護者に知らせる。	エコだよりを発行したり、畑や稲づくりの様子をおたよりで知らせた。	100

24	五十崎 こども園	自然	○ミニ小田川や竜王公園での体験活動を年間通して行う。 ○年間を通してえひめA1-1を水やりや掃除等で使用する。	○コロナ禍で計画どおり実施できない時もあったが、小田川河川敷で草花を調べたり、遠足で竜王公園に行ったりすることができた。 ○えひめA1-1を年間を通して活用できた。	80
		暮らし	○年間を通じペットボトルキャップやアルミ缶の回収を呼びかけ、保護者の協力を得ながら活動を継続する。 ○廃材や空き箱を製作等に利用し、家庭にも再利用の情報を提供する。(年2回以上)	○保護者からペットボトルやアルミ缶の回収に協力していただいた。 ○廃材を遊びや制作活動で活用し、子どもたちにさまざまな活用方法があることを知らせていった。	100
		環境教育	○牛乳パックのため洗い方法を知らせ、水を大切に使う。 ○年に1～2回、保護者や地域に向けてエコだよりを発行する。	○今年度から感染防止の点から牛乳パックをため洗いせず、処分することになった。そのため袋を使いすぎないように工夫した。 ○3学期末にエコだよりを発行した。エコ活動は計画どおりにはできなかったが、工夫しながら活動した。	80
25	くるみ 保育園	自然	戸外活動時に自然物を収集し、室内に飾ったり、飼育したりするなど遊びに活用し、親しめるようにする。	散歩やミニ遠足に行った際、自然物(木枝や草木)を収集したり、採ってきた草の名前を図鑑で調べたりして遊びに活用することができた。	100
		自然	子どもたちと一緒に野菜を育て、収穫した野菜は給食やクッキングで活用する。	幼児クラスはクラスごとに夏野菜の世話をしたり収穫したりした。コロナ感染防止のため、園ではクッキングの機会は設けられなかったが、採れた野菜を持ち帰り、家庭でクッキングに活用してもらった。	100
		自然	グリーンカーテンを作り、日よけとして活用する。	風船カズラ、ゴーヤでグリーンカーテンを作り、日よけとして活用した。	100
		暮らし	廃油、アルミ缶、ペットボトルキャップの回収を月1回実施する。	ペットボトルは回収業者がコロナ禍のため、年度途中で回収ができなくなったのでそれ以降は回収をストップしている。アルミ缶、ペットボトルキャップは随時回収できている。	100
		暮らし	給食で出た野菜や果物の皮は、すべて近所の農家に肥料として提供する。	給食で出た野菜や果物の皮のすべてを近所の農家の方に肥料として提供した。	100
		暮らし	毎月15日をエコスマイルデーとし、異年齢児の縦割りグループで園庭の石拾いや草引きなどエコ活動を行い、エコ感覚を育む。	幼児組を中心に園庭や畑などの草ひきや石拾いを行ったり、園内の拭き掃除をしたりしてエコ活動を行った。	100
		環境教育	エコだよりを年2回以上発行するほか、エコ活動の様子を掲示し、保護者や地域への啓発につなげる。	今年度はエコだよりが1回しか発行できなかった。	70
環境教育	散歩に出かけて地域の産業や人々の生活、四季折々の自然などに関心が高まるような保育を心掛ける。	散歩にはよく出かけたが、地域との交流はコロナ禍のため予定どおりには実施できなかった。	70		

26	石畳 へき地 保育園	自然	○年間を通して散歩に行き、野原や山、川などの美しい自然に触れる。 ○地域のごみ拾いを年4回以上実施する。	○天候の良い日は戸外あそびを中心とした活動を実施することができた。散歩に行ったり川あそびをしたりして身近な自然に十分にふれ合うことができた。 ○ごみ拾いを3回しか実施することができなかった。	90
		暮らし	○年間を通して、空き容器を再利用して製作したり、自然物を遊びに取り入れたりする。 ○当番を中心に電気の消し忘れや水道の蛇口の確認を行い、友達に呼びかけられるようにする。	○空き容器を使って共同製作をしたり、日々の保育の中で製作活動を十分に進めたりすることができた。 ○当番を中心に子どもたちが電気や蛇口を確認し、友達同士で呼びかけあうことが身についてきた。	100
		環境教育	○「エコだより」を年2回配布し、子どもたちの取り組みを家庭と共有する。 ○年6回以上、環境に関する絵本や紙芝居の読み聞かせを行う。	○エコだよりは1回しか配布できなかった。 ○年6回、環境に関する読み聞かせができた。	100
27	内子 児童館	自然	○職員が1人1回以上、ホテル観察などの自然観察会に参加する。	放課後児童クラブの事業として、小田深山で水辺の生き物観察を実施。自然に触れ合うことができた。	100
		自然	○トイレや流しには週1回、植物への灌水には適宜、えひめAI-1を使用する。	月に1度、流しへの使用にとどまった。	25
		暮らし	○年間を通し、施設周辺のクリーン活動を行う。 ○年間を通じてペットボトルキャップの回収を行い、児童館だよりで年2回以上報告する。	○悪天候を除き、始業前に施設および周辺道路などのクリーン活動を実施した。 ○年間を通して幼稚園・保育園・学校などから211.6kgのキャップを回収し、世界の子どもたちにワクチンを寄付できた。	100
		環境教育	○子どもたちと一緒に年3回程度、野菜や花の栽培を行う。 ○親子クラブと児童クラブで、1回以上エコ教育を行う。(エコ鉛筆、ゴミ、エコバッグづくり)	○館内の菜園で農作物の植付・収穫・食すなど労作活動を行った。また玄関前には花の栽培を行った。 ○児童クラブのお誕生会でエコ鉛筆をプレゼントし、エコ教育を行った。	100
28	五十崎 児童館 きらり	自然	廃材、廃品を利用して制作活動を年間2回以上行う。	○笹飾りの花紙を再利用したハガキ作りを行い、介護施設へ手紙を送った。 ○廃材を使った木工製作体験 ○児童館事業での廃材利用や、児童クラブ室に廃材を設置し、子どもたちが自由に製作できる場を提供している。	100
		自然	プランター、花壇の水やりには、プール遊びで使った水を使用する。	ジャガイモ・サツマイモ・キュウリ・ゴーヤ・オクラ・ニンジン畑を畑やプランターで栽培。料理教室や児童クラブのおやつに使用した。	80
		暮らし	グリーンカーテンを20㎡以上作り、節電につなげる。	キュウリ・ゴーヤ・フウセンカズラでグリーンカーテンを20㎡以上作ったが、コロナ対策による換気等のため、節電はできなかった。	90
		暮らし	年間を通して月1回以上のクリーン活動(近隣の公園の清掃など)を行う。通学路などのごみ拾いを年3回以上行う。	近隣公園の清掃や児童館周辺の清掃、ごみ拾いを月1回行った。	100
		環境教育	アルミ缶・ペットボトルキャップ・廃油の回収を続ける。年3回以上、きらり通信や掲示を通じて利用者や地域の人にも協力をお願いする。	アルミ缶・ペットボトル・廃油の回収は年間を通して実施した。きらり通信で協力願いを実施。2回掲載	100

28	五十崎 児童館 きらり	環境教育	児童館・児童クラブで年2回以上、環境をテーマとした学習や活動を行い、資源の大切さを伝える。	○女性林研グループや森林組合の指導により、森林の必要性や整備等について学習し、間伐材や建築廃材を使った木工製作体験を行った。 ○クリーンセンターの見学と、あわせて環境政策室職員によるエコ学習を実施し、リサイクル等について学習した。	100
29	内子子育て 支援 センター	自然	○施設周辺の掃除を週3回以上行う。 ○グリーンカーテンを10㎡設置する。 ○花や野菜の水やりとプールの水を再利用する。AI-1を混ぜて使う。	全て実施、達成することができた。	100
		暮らし	○ペットボトルキャップ年間6kgの回収に努める。 ○リユースの仲介を年5回以上行う。 ○乳幼児学級、親子教室など親子を対象に廃材を使っておもちゃなどを作る活動を年1回以上行う。またグリーンカーテンを再利用し、クリスマスリース作りを行う。	全て実施、達成することができた。	100
		環境教育	○内子産の野菜や旬の食材を使った調理活動を年1回以上行う。 ○乳幼児学級の保護者を対象に、環境学習会を年1回行う。 ○乳幼児学級や親子遊びで散歩に出かけた際、ごみ拾いを行う。	小田地区の親子教室で内子産野菜を使用した。 学習会・ごみ拾いはコロナ禍により実施できなかった。	30
30	障害者 地域活動 支援センター かいと	自然	公衆トイレ清掃に行く際に毎回、周辺のごみ拾いを行う。	公衆トイレ清掃時には毎回周辺のごみ拾いを行った。	100
		暮らし	年間約8回のイベントにおける自主製品販売のうち4回は、材料の1つに町産品を用いる。(ラベルに内子町産と記載)	コロナ禍でイベントでの自主販売はできなかった。個別注文等では自主販売を行えたが、町産材料の高騰などによりラベルには内子町産は記載できなかった。	50
		環境教育	月1回は朝礼か終礼の際にエコに関する情報や取り組みの話題提供を行う。	毎月はできなかったが、エアコン温度設定や廃油石鹸、ごみ分別など、2カ月に1回は話題提供できた。	50
31	内子 幼稚園	自然	年間を通して水遊びで使用した水を、野菜や花の水やりとして再利用する。	目標どおり実施できた。	100
		自然	年に2回、環境政策室の方も交えて散歩に行く。	1回目は5/28実施。2回目の計画は予定が合わず、園児や職員のみで実施した。	80
		自然	年間を通して、散歩や園庭で見つけた身近な自然や生き物に触れ、親しみをもてかかわる。	園庭の草花を摘んで遊んだり、草花探しゲームをしたりしたことで、子どもたちも草花に興味を深まり、親しむことができた。	100
		暮らし	廃材や空き箱を製作や保育活動に利用し、家庭にも再利用の情報を提供する。	目標どおり実施できた。家庭からたくさんの方の廃材を持ってきていただいた。	100
		暮らし	給食の牛乳パックはため洗いし、すべてリサイクルする。	毎日牛乳パックのため洗いを行った。また牛乳パックを利用して子どもたちとハガキづくりを楽しんだ。	100

31	内子幼稚園	環境教育	年2回エコだよりを発行して幼稚園での取り組みを保護者に伝え、家庭の意識啓発につなげる。	目標どおり実施することができた。	100
		環境教育	年2回エコ集会を行い、ごみの分別や再利用、物を大切に使うことなどを伝え、エコ意識がもてるようにする。	目標どおり実施することができた。	100
32	立川幼稚園	自然	年間を通して植物や野菜を育てる。また収穫した野菜を使って、年2回以上クッキングをする。	年間を通して植物を育てることができた。子どもたちと一緒に寄せ植えをして家庭に持ち帰り、家庭でも興味を持てた。夏野菜を植え、調理して食べるなど、植物や野菜のことをたくさん知ることができた。	100
		暮らし	年間を通じて保育活動で廃材を使用したり、家庭にも廃材の再利用を呼び掛けたりする。	廃材を利用して製作したり、遊ぶ道具にしたりした。	100
		環境教育	年間を通じて自然の大切さを絵本や紙芝居などの教材、散歩などの活動の中で伝えていく。	目標どおり実施することができた。	100
		環境教育	年に1回環境マイスターの方をお呼びして、自然保護の学習をする。	環境マイスターと保護者と一緒に川遊びをし、生物を調べたり、川のきれいさなどを学んだ。	100
33	小田幼稚園	自然	地域と連携し、小田の自然に親しむ活動を年1回以上行う。	地域のゲストティーチャーや小学1年生と一緒に川遊び体験をすることができた。また以前から計画していた麦踏み体験もさせていただき、地域の自然と関わるすることができた。	100
		自然	月1回は散歩に出かけ、地域や自然に親しむ。	散歩に出かけて虫とりを楽しんだり、拾った自然物を遊びやお祭りごこの神輿製作に活かしたりすることができた。	100
		暮らし	年2回以上、廃材や廃品の回収を家庭に呼びかけ、製作材料にする。	園だより等で廃材回収を家庭に呼びかけて協力してもらい、遊びや製作に活かすことができた。	100
		暮らし	給食の牛乳パックはため洗いをして集め、すべてリサイクル回収に出す。	牛乳パックはすべてリサイクルに出すことができたが、感染対策のため水の共有は避けた。	100
		環境教育	○日々の保育の中で、エコに関する紙芝居や絵本の読み聞かせを実施する。 ○日々の保育の中で、水や電気の使い方を伝えていく。 ○園だより等でエコに関することを年に2回以上記載し、各家庭にエコ活動を伝えていく。	○エコに関する紙芝居や絵本を取り入れることができた。子どもたちが繰り返し見ている絵本もある。 ○手洗い、歯磨き等、身近な場面での水の使い方を繰り返し伝えることで、大事に使うという意識ができてきた。 ○家庭から持ってきた廃材を利用して製作し、家庭に持ち帰ることで身近なエコを伝えることができた。	80
34	内子小学校	自然	節水に関する学習を継続し、手洗い・うがい・歯磨きの時に節水に心掛けるようにさせる。	社会科、総合的な学習の時間、環境子ども会議等を通じて環境を守ることの大切さを学んだ。日々の教師の声かけにより手洗い・うがい・歯磨きの時に節水を心がけた。	90
		暮らし	アルミ缶、ペットボトルキャップ集めの週間を月1回設定し、保護者や地域にも働きかけ、年間を通して回収を行う。	月1回のアルミ缶、ペットボトルキャップ集め週間を設定したり、回収場所を体育館ピロティにしたりすることで年間を通して安定して回収することができた。	100
		暮らし	PTAによる標準服、体操服等のリユース活動を参観日を利用して行う。	参観日等でPTAによる標準服・体操服等のリユース活動を行うことで、効率的にリユース活動を進めることができた。	100

34	内子 小学校	環境教育	小田深山での活動や環境子ども会議に向けて、内子町の自然や環境について学習し、理解を深める。(4・5年生)	○自然に関する講演を通して、自然を守ろうという意識が高まった。 ○小田深山での自然体験活動や水生生物調査、クリーンセンターや浄水場の等の見学を通して、内子の環境について考えることができた。	100
		環境教育	外部講師と連携しながら環境学習を進める。	うちみづネットの協力を得て、学習内容に合わせた外部講師を紹介していただき、定期的に打合せを行いながら学習を進めている。	100
35	大瀬 小学校	自然	総合的な学習の時間や生活科を通して大瀬の環境保全について理解を深め、家庭への啓発にも活用する。	5年生が環境について学ぶ機会を得たが、家庭へ広げるには至らなかった。	70
		自然	ペレットストーブの稼働により、灯油の使用量を減らす。	ペレットストーブの稼働により、灯油の使用量がゼロであった。	100
		暮らし	ごみの分別、廃棄物の適正な処理を心掛ける。	ごみの分別等、適正な処理ができた。	100
		環境教育	総合的な時間や社会科を通して、リサイクル等に関する理解を深める。	地域の方の協力も大きく、多くのアルミ缶を回収できた。	100
36	立川 小学校	自然	校内の落ち葉収集を週に3日以上実施し、校内での腐葉土としての利用を促進する。	年間を通じて週平均3日以上実施することができたが、落ち葉や草の量が多く、腐葉土として利用ができなかった。	80
		暮らし	アルミ缶回収を広く地域にも呼びかけ、年間150kg以上のアルミ缶回収を目指す。	アルミ缶回収だけでなく、古紙の回収も呼びかけ、地域の方に協力していただいた。アルミ缶約350kg回収できた。	100
		環境教育	森林や川等の自然に関する体験学習を年間1回以上実施する。	稚鮎の放流や椎茸植菌、炭焼き体験活動など、環境に関する体験学習を行った。学期に1回以上実施することができた。	100
37	石畳 小学校	自然	里地里山の再生のため、地域の協力を得て、全校児童が休耕田を利用したそば作り、米作りを行う。収穫後は、そば打ちをしたり餅をついたりして、年6回以上地域との交流を図る。	コロナ禍で田植えには参加できなかったが、そばの種まき・収穫・そば打ち、稲刈り・餅つきと年間5回、地域や保護者の協力を得て自然に関わる取り組みを独自に行うことができた。	90
		自然	6月のプール使用前に、えひめAI-1を排水溝に、月1回以上積極的に活用する。	2年ぶりに水泳の授業、夏休みのプール開放を行ったのにあわせて計画的に活用することができた。	100
		暮らし	定期的に見守りや保護者、地域の方々に呼びかけて、アルミ缶回収を行う。	保護者・地域の方々に積極的に回収を呼びかけ、多くのアルミ缶を回収することができた。	100
		暮らし	年間を通して植物栽培を行い、自然に感謝する心を育てる。	季節に応じてさまざまな植物を育て、美しい花に囲まれて自然に感謝する心を育てることができた。	100
		環境教育	「環境子ども会議」に向けて、年間を通じてどんな取組をしていくか話し合い、学年末にはその成果や改善点評価する	環境子ども会議はオンライン開催になったが、講師の話をしっかり聞き、エコについて学習することができた。	90
		環境教育	毎月の学校便りを活用して、アルミ缶回収やえひめAI-1の活用、環境教育の実践等、本校の取組を年3回以上紹介する。	毎月発行する校報等を通して、本校のアルミ缶回収や環境教育の実践について、家庭や地域の人々に紹介することができた。	90
38	五十崎 小学校	自然	学年の学級園や児童玄関前のプランターを計画的に運用し、年間を通して植物等に児童が触れることができる環境を整える。	学級園等の栽培は、夏場を中心に計画的に行うことができた。プランターや花壇等は年間を通じて草花を栽培し、美化委員も水やり等の活動に常時参加することができた。	100

38	五十崎 小学校	暮らし	児童を通して呼び掛けたり、家庭・地域に啓発を行ったりして、毎週1回アルミ缶回収を継続する。	週2回、美化委員が中心になり回収の呼び掛けを行った。さらに今年度はコミスクの取り組みとして、地域全体にも協力を呼び掛けた。回収量がかかなり増加し、校内だけでなく地域全体の一体感のある活動になってきた。	100
		環境教育	生活科や総合的な学習の時間に取り組んだ環境教育の実践を、学校便りやホームページ等で年間3回程度紹介し、家庭や地域に情報を発信する。	自然環境に関わる学習活動について、学年通信等を通じて情報発信を行った。また下半期からコミスクの取り組みについても毎月通信を作成し、地域に回覧した。学習やアルミ缶回収など、地域全体にお知らせする機会を持つことができた。	100
39	天神 小学校	自然	落ち葉等で堆肥を作り、学級園で活用する。ヘチマ栽培でグリーンカーテンを作る。	落ち葉を集めて堆肥作りを行ったが、効果的に畑に使用することはできなかった。ヘチマ栽培でグリーンカーテンを作り、冷房の使用回数を減らすことができた。	90
		暮らし	保護者や地域にアルミ缶回収を呼び掛け、アルミ缶を売却し、その収益で花の種や野菜などの苗を購入する。	コミスクいかざぎとの連携で、地域全体にアルミ缶回収の協力を求めることにより、回収量も例年の1.5倍以上となった。保護者や地域の方にリサイクルの意識を広めることができた。	100
		環境教育	ごみの分別について子どもたちに理解させ、家庭地域へも啓発を図る。環境学習に取り組んだ折には、学級便りやホームページで発信する。	環境教育について学習している5年生を中心に、ごみ分別の大切さやリサイクルについて全学年に紹介したり、学習発表会の場で保護者に伝えたりした。また学級便りやホームページで発信した。	100
40	小田 小学校	自然	さつまいもの栽培、収穫、料理等、自治会と協力した活動を年2回以上行う。	コロナ禍で苗植えはできなかったが、自治会と協力して収穫を行うことができた。また畑を借り、栽培活動を年間通じて行った。	90
		自然	小田川に親しむ活動を年6回以上行う。	1年生のカジカ採り、2年生の生きものの観察、5・6年生の水生物調査等、小田川の生き物や自然に触れる活動を年間4回実施した。	80
		暮らし	紙ごみと可燃ごみの分別を徹底して、校内から出るごみの排出量を削減します。	分別を徹底して行ったが、夏期休業中の職員作業、学年末の文書等の整理により、8月と3月はごみ袋の排出量が増えた。しかし目標数値からはかなり削減できた。	100
		暮らし	印刷ミス用紙の裏側を利用してメモ用紙等を20冊以上作り、活用する。	校内文書等は両面印刷・裏面印刷を推奨するとともに、ミライムを活用し、用紙を使用せずアンケート集計や職員間の連絡を行った。また印刷ミス用紙を利用した伝言メモを手作りした。	80
		環境教育	ホームページや学校便りに、学期に1回以上、環境に関する実践やエコに関する記事を掲載する。	児童の自然体験活動や苗植えの様子等を掲載した。紙ごみの分別、節水等については児童・職員が積極的に行っている。	100
41	内子 中学校	自然	年1回、PTAと協力して敷地内の草刈りを実施する。	8月に予定していたが、コロナ禍のため実施できなかった。	—
		自然	年1回、3年生全員が廃油石けんづくりを体験する。(コロナの影響がなければ実施)	2学期に総合的な学習の時間で実施。	100

41	内子 中学校	暮らし	牛乳パックを回収し、年間50ロール以上のトイレットペーパーへのリサイクルの促進を目指す。(コロナの影響がなければ実施)	コロナ対策のため、牛乳パックを回収することができなかった。	0
		暮らし	生徒会活動の一環として、最低月1回、アルミ缶を回収する。	毎月実施中。	100
		環境教育	環境子ども会議への参加者を、1年生全員とする。(新型コロナウイルス感染拡大防止のための影響がなければ実施)	環境子ども会議に1年生全員が参加した。	100
		環境教育	ホームページを通じて、年に3回学校の環境に関する取組を紹介する。	毎月1回は紹介している。	100
42	大瀬 中学校	自然	校内の落ち葉収集や除草活動を継続的に行う。	季節の落ち葉収集、毎日の除草活動を実施した。PTAやコミスクの協力も受けて草刈りも頻繁に行った。落ち葉で肥料作りも行った。	100
		暮らし	各月の電気・ガス・紙・冬の灯油の使用量を環境掲示板に掲示するとともに、紙と灯油の使用量については職員会で週ごとに口頭で伝達し、適切な使用を心がけるよう啓発する。	各月の使用量を確認し、口頭で伝えることでエコオフィス推進を呼びかけた。冬の灯油の使用も意識して取り組めた。	90
		環境教育	生徒会活動を中心に、毎週木曜日に可燃ごみの回収に努めるとともに、週1回朝のボランティア活動で草引きや普段できない部分の清掃活動をする。それを生徒集会で発表して、環境に配慮した生活の意識を高める。	生徒が木曜日に放送で呼びかけ、ごみ回収を行った。週1回朝のボランティアも意欲的に行った。生徒集会で取り組みも発表することができた。	100
43	五十崎 中学校	自然	○月2L(ペットボトル5本分)のえひめAI-1を散布する。 ○卒業証書はすべて地域内で生産された和紙を使用する。 ○美術科で使用する風景画用の紙を地域産のものに換える。	○生徒会を中心に散布を行い、概ね達成できた。 ○地域さんの和紙による卒業証書を使用できた。 ○大洲和紙を用いて美術科の授業を行った。	100
		暮らし	コロナ感染の危険が無くなったときから、牛乳パックを回収し、トイレットペーパーへのリサイクルを行う。	「感染警戒期」には回収しなかった。「感染縮小期」には、実施できた。	75
		環境教育	環境副読本を利用した授業を1回以上、各学年で行う。	1年総合、2年家庭科、3年理科の授業において取り上げた。	100
44	小田 中学校	自然	えひめAI-1を週1回、トイレと洗面所に使用し、学校便り等を通じて学期に1回保護者に利用促進を呼びかける。	年間通して利用を継続し、環境衛生面で効果を得ることができた。またPTAの会や校報「せせらぎ」で利用促進を呼びかけた。	80
		自然	1年生による農業体験学習や全校生徒によるふるさと学習を年5回実施する。	7/2ピーマンの収穫作業、出荷作業等の農業体験学習を実施した。	100
		自然	全校生徒でふるさと学習の時間を活用したシタケの栽培から収穫、調理に関する学習を年間5回以上実施します。	ふるさと学習等の時間にシタケの栽培や木彫りの校歌製作を年間10回以上行った。	100
		暮らし	生徒会環境委員会を中心に地域住民・事業所に対して働きかけ、年500kg以上のアルミ缶の回収を目指す。	回収強調週間を設けて、全校生徒および教職員で努力した。年間回収量520kgで、目標を達成した。	100
		暮らし	牛乳パックを回収し、年50ロール以上のトイレットペーパーへのリサイクル促進を目指す。	回収率100%を達成できた。	100
		環境教育	生徒会環境委員会による取り組み発表を年1回以上実施する。	環境委員会の発表を1回実施できた。	100

44	小田 中学校	環境教育	生徒会本部投げかけによるボランティア清掃を月2回以上実施する。	今年度も目標を達成した。また参加率も上昇が見られた。	100
		環境教育	環境子ども会議に1年生全員が参加し、町内の活動について学習するとともに保護者の参加を呼びかける。	オンライン学習会に参加し、環境問題について理解を深めるとともに、活動の様子を校報にて紹介し、啓発に努めた。	100
45	内子 学校給食 センター	自然	給食で使用する町内産食材の割合(重量ベース)を60%以上とする。	野菜は町内産を優先しているが、量の確保が難しいこともあり、重量ベースで54.6%となり、目標を達成できなかった。	91
		暮らし	廃食油すべてをBDFとして活用する。	目標どおり実施できた。	100
		環境教育	毎日の献立に関する食情報・思いを給食時放送文として各学校に送付する。	目標どおり実施できた。	100
46	小田 学校給食 センター	自然	給食の食材における町内産野菜の使用率65%以上を目指す。	冬場を中心に町産野菜の出荷が少なくなり、56%の使用率となった。	86
		暮らし	廃食油すべてを再利用する。	配食油はサン・ラブで全て再活用していただいた。	100
		環境教育	環境に関する教育を、施設において年3回以上開催する。	目標どおり実施できた。	100
47	図書 情報館	自然	館内に飾る花は、町内の自然の花を使用する。	目標どおり実施できた。	100
		自然	西側花壇では、季節の草花を植栽し心安らぐ景観づくりに努める。	西側にはコキアを植えて、夏から秋にかけて心の安らぐ景観づくりに努めることができた。	100
		暮らし	雑誌のリユース率を80%とする。	雑誌640冊のうち639冊が持ち帰られ、リユース率は99%だった。コロナ対策のため、密にならないよう期間を延長して行ったためリユース率は格段に上がり、ほぼリユースできた。	100
		暮らし	ペットボトルのキャップ収集に協力する。	館内に収集箱を設置し、利用者に協力してもらった	100
		暮らし	牛乳パックを収集し、再利用に努める。	ボランティアグループや職員から牛乳パックを収集し、おはなし会用の小道具製作に使用した。	100
		環境教育	エコロジーに関する資料を収集し、年1回は広報等で知らせる。	広報で8回周知。資料は8冊蔵書した。	100
		環境教育	学校等でのブックトークを通して年4回以上、子どもたちへの環境教育資料をアピールする。	ブックトークで環境教育資料を7回アピールした。また8月の企画展で環境に関する展示を実施したほか、年間5回エコおはなし会を実施した。	100
48	内子 自治センター	自然	愛護班や高齢者大学において、自然教育に関する学習会を年2回以上行う。	愛護班では学習会を1回開催した。高齢者大学ではコロナ禍のため実施できなかった。	50
		暮らし	夏場の室温を下げるため、緑のカーテンを事務室の窓全面(6.8㎡)に設置する。またサン・ラブの協力によるゴーヤ苗およそ50株を配布し、緑のカーテンの普及に努める。	緑のカーテンを植え、窓一面を覆うほどに成長した。苗も50株以上を配布した。	100
		環境教育	自治会連絡会や高齢者大学の講座などにおいて、環境教育をテーマとした学習会を年2回以上行う。	自治センター研究大会で景観をテーマとした講演を実施。地域における環境についてもお話いただき、町内の環境問題などについて考察する機会があった。	50
49	内子東 自治センター	自然	東自治センターの主催事業において、環境保全に関する体験活動を年1回以上実施する。	コロナ禍で実施できなかった。	0

49	内子東 自治センター	暮らし	緑のカーテンの苗を配布し、コンテストに自治センター管内から2件以上の応募を呼び掛ける。	目標どおり実施できた。	100
		環境教育	環境に関する記事を自治センターだよりに年1回以上掲載する。	高齢者教室で環境保全に関する学習会を予定していたが、コロナ禍で開催できなかった。	0
		環境教育	環境問題に関する情報を館内で回覧し、情報共有を図る。	エコオフィス推進委員会の資料を回覧し、情報共有を図った。	100
50	大瀬 自治センター	自然	「第45回大瀬農業祭柿まつり」の成功に向けて、柿などの特産品を町内外に広くPRする。特に町外では2回以上実施する。また地元で採れた果樹や農産物を中心とした軽トラ市を10台以上で実施する。	コロナ禍により事業中止となった。	—
		暮らし	施設利用者に対して使い捨て容器の使用の自粛を啓発し、自粛率80%以上を目指す。	コロナ禍で館内飲食禁止となった。	—
		環境教育	エコセミナーの内容を精査し、より充実させ、年10回以上実施する。活動を通して子どもたちの環境に対する意識を高め、郷土愛を育てる。	コロナ禍で5回のみ開催となった。	50
51	五十崎 自治センター	自然	環境学習会を、元気わくわく川まつりのイベント開催時に実施する。学習会の中で水中生物等に触れ、生態系で生物がどのように環境とつながっているのか、勉強していく。	河川状況により元気わくわく川まつりは実施できなかったが、センター事業として水生生物観察会を行うことができ、学習することができた。	80
		暮らし	肥料場で肥料を作り、必要な自治会へ提供活用する。	目標どおり実施できた。	100
		暮らし	廃棄段ボールを再利用した事業を展開する。	企業等で出た段ボールでソーシャルディスタンスを取るための「お客ちゃま」を子どもや神南荘等に協力してもらい作成することができた。またイベントなどで段ボールを使ったギミックなどを作成できた。	100
		環境教育	センターだよりにて、環境に関する記事を掲載していく。	環境学習会などの記事を掲載した。	80
52	小田 自治センター	自然	敷地内の落ち葉は堆肥化もしくは土に返す。堆肥は希望者にすべて無料配布する。	落ち葉をたい肥にし、プランターに花苗を植栽する時に使用した。	100
		自然	城の台公園の剪定した枝葉について、希望者全てに無料配布する。(動物園用エサ等)	今年度は希望者がいなかったため堆肥化を行った。	—
		暮らし	○本館・分館間での図書移動の際の梱包材・緩衝剤は、購入時に同梱されている物を再利用する。 ○生活の中で生かせるような環境関係図書を年間10冊以上購入する。	目標どおり実施できた。	100
		環境教育	自治センターだよりにて環境に関する記事を年2回以上掲載する。	目標どおり実施できた。	100
53	社会福祉 協議会	自然	毎月の民生委員会配布資料等、可能な範囲で針なしホッチキスを積極的に使用し、ホッチキス芯やクリップの消費量を減らす。	芯なしホッチキス使用を推進し、芯の購入はしなかった。クリップ3箱購入(R2は4箱)で消費量を減らした。	100
		暮らし	外出支援(ミニデイ)サービス利用者に毎月配布する案内文書にて、マイボトル持参と買い物時のエコバック持参をお願いする。	毎月の案内に掲載し周知啓発を行った。(12回)	100

53	社会福祉協議会	環境教育	年1回以上、サロンや協議体でゴミの分別について話し合う場を作るなど、積極的に学習する機会につなげる。	12月・3月にいくつかのサロンにおいて、高齢者世帯でゴミ出しに苦労している点や分別等について話し合う場を作った。(3回)	100
54	みどり苑	自然	施設所有の畑を利用し、年間を通じて栽培した季節の野菜(ジャガイモ、スイカ、さつまいも等)を収穫し、施設用の食材として利用する。	入所者・利用者共に栽培した野菜や施設内の竹林で収穫したタケノコを食材として利用した。	90
		暮らし	施設から排出される食用廃油の100%再利用化(石鹼・車用燃料)を図る。	サン・ラブによりすべて回収してもらい、再利用化を図った。	100
		環境教育	みどり苑だより(年4回予定)や家族会(年1回)を通して、入所者・利用者・各家庭に対し年2回以上、苑の環境への取り組みを周知する。	みどり苑だよりにグリーンカーテンの取り組みを掲載した。	80
55	神南荘	自然	厨房から出る廃食用油はサン・ラブの回収に出し、すべてBDF燃料として地域内使用に回す。	目標どおり実施できた。	100
		暮らし	普通浴に利用している古田鉱泉については、源泉から施設までの配管や貯水タンクの維持管理を行うことで水道使用量を抑える。	目標どおり実施できた。	100
		環境教育	毎朝の朝礼で最低月1回、毎月の職員会で4回以上、エコオフィスの推進を呼びかける。	目標どおり実施できた。	100
56	内子フレッシュパークからり	自然	隣接する小田川周辺河川敷の除草。植樹、落ち葉の回収→出荷者へ提供(堆肥用)	春から秋にかけて土手の草刈りを実施。倒木の恐れのある木は自分たちで伐採したり、森林組合に依頼して整備。落ち葉は年間を通じて回収し、希望する出荷者へ提供。挿し木の紫陽花や水仙・彼岸花の球根の定植を毎年実施しており、本年度は菜の花の種も撒いてみた。	100
		暮らし	ゴミ分別の再徹底を図る	職員が出すごみは分別されているが、お客様から出るごみの分別が大まかになっており、いかにして協力を得られるかが課題。ごみの最少量化を図れる出荷・販売の提案が必要と考えている。	80
		暮らし	マイバック持参の呼びかけの継続	マイバッグが定着してはいるものの、レジ袋以外のビニール袋の使用の少量化が難しい。衛生面から「0」にすることは難しいため、必要最低限の使用にとどめていただけるような呼びかけの強化が必要だが、なかなか難しく、しばらく時間がかかりそう。	90
		環境教育	小田川の生物紹介、内子周辺の動植物の紹介、内子町の食文化紹介。	小田川周辺の動植物の紹介は継続している。内子町の食文化は、出荷者による昔ながらの食材等が高齢化によって立ち消えにならないよう、後継者の発掘に努めていきたい。新しい昆虫食の提案も紹介していくことで、今後の注目を集めていきたい。	100
		環境教育	プラスチックゴミ問題についての記事等紹介	世界の新しい情報を取り上げ、掲載していきたい。	50
57	小田の郷せせらぎ	自然	特産品売り場内にて90%以上地元で作った野菜を販売し、地産地消に努める。	100%地元で作った野菜を販売した。	100

57	小田の郷 せせらぎ	暮らし	年間を通じて、お客様、生産者に対し、マイバッグを持参して頂けるよう職員が呼びかけを行い、レジ袋を使用しないよう務める。また、職員はマイバッグを100%持参する。	年間を通じてお客様・生産者に呼びかけを行った。しかし町外のお客様にはレジ袋を購入する方も多く見られた。職員は100%マイバッグ持参ができた。	100
		環境教育	業者に対し、搬入時の資材はすべて回収していただくよう呼びかけを行う。	100%資材を回収していただいた。	100
合計	自然	80			89.6
	暮らし	85			95.4
	環境教育	78			87.2
	計	243			90.9

(4) 数値目標評価結果

うちエコの視点・エコアクション (A:環境活動) ①ホップ④ステップ⑦ジャンプ
 ・エコマネジメント (M:環境経営) ②ホップ⑤ステップ⑧ジャンプ
 ・エコガバナンス (G:環境自治) ③ホップ⑥ステップ⑨ジャンプ

ステージ		目標	達成状況	評価
ホップ	A103	電気使用にかかる温室効果ガス排出量を、2019 年度比で 1.6%以上削減します。	×	△
	A104	公用車等の燃料使用にかかる温室効果ガス排出量を、2022 年度までに、2019 年度比で 5.5%以上削減します。	×	
	A105	公用車の走行にかかる温室効果ガス排出量を、2022 年度までに、2019 年度比で 0.6%以上削減します。	○	
	A106	その他燃料使用にかかる温室効果ガス排出量を、2022 年度までに、2019 年度比で 5.5%以上削減します。	○	
	A107	公共事業における省エネルギーに関する環境配慮率を、90%以上にします。	○	
	A108	コピー用紙等の使用量を、2025 年度までに、2019 年度比で 2.5%以上削減します。	○	
	M107	環境や環境マネジメントシステムにかかる職員研修を年 1 回以上開催します。職員はこれに積極的に参加し、その内容を理解します。	○	○
	M112	ホップステージの取り組み項目や目標について、監査を年 1 回実施します。	○	
	G104	環境に関連する情報を、広報や HP で年 50 回以上提供します。	○	
ステップ	A205	内子町環境基本計画にかかる事業の達成度を示す指数および数値目標の達成率を 70%とします。	○	○
	A206	内子町環境基本計画に関連した独自の数値目標を各部署で設定・実施し、その達成率を 90%とします。	○	
	M206	内子町環境マネジメント推進本部会議を年 2 回開催し、評価・見直しを行います。	○	○
	M207	ステップステージの取り組み項目や目標について、監査を年 1 回実施します。	○	
	G203	環境に関する施策・事業計画等について、町民との意見交換の場を年 20 回以上設けます。	○	○

ジャンプ	A302	うちエコに賛同し実践する事業所等を3つ以上設け、公表します。	×	△
	A305	エコロジータウン内子のまちづくりを推進するため、環境団体等が主体となって勉強会を年1回開催します。	○	
	A307	えひめ AI-1 の利用促進を図るため、環境団体が主体となり農業分野における実践活動を1つ以上行います。	○	
	A308	環境団体が主体となり、環境に関する実践活動を、他団体と連携して15回以上開催します。	○	△
	M304	ジャンプステージの取り組み項目や目標について、監査を年1回実施します。	×	
	G302	町民や事業者、団体、自治会等の環境への取り組みについて、年1回は広報で紹介するとともに、年次報告書に掲載し公表します。	○	○
	G303	住民、団体等による主体的な活動を5種類以上サポートします。	○	

達成状況：○＝達成、×＝未達成

評価：○＝良好、△＝改善要望、×＝勧告

[所見]

9つの評価項目について「○」（良好）＝6つ、「△」（改善要望）＝3つ、「×」（勧告）＝0となり、令和3年度と比べて「△」が1つ増え、「×」が1つ減りました。

「△」評価の1つは、ステップステージのエコオフィスにかかる目標です。6つのうち2つの項目で達成状況が「×」となっています。

A103 の電気使用にかかる項目では、温室効果ガス排出量を2019年度比で1.6%削減するとの目標に対して、13.4%の増加という結果になりました。

主要要因として、コロナ禍における換気の必要性から夏季・冬季のエアコン使用にかかる電気使用量が増え、年間で3.1%の使用量増加となった点が挙げられています。さらに2019年12月以降、伊方原発3号機の停止に伴って火力発電の比重が高まったことから、温室効果ガスの排出量を算出するために用いる排出係数が2019年度0.500から2021年度0.550となり、使用量の増加に比べて、温室効果ガス排出量の増加率がより大きくなりました。

またA104の公用車等の燃料使用にかかる項目では、ガソリンの使用量は減少したものの、軽油の使用量が増加しました。これは、基準とする2019年は暖冬の影響でスキー場の営業期間がかなり短かったのに対し、2021年度は例年並みの営業期間となったことで、降雪機等にかかる使用量が増加したと考えられます。しかし、これらはいずれもやむを得ない事情によるもので、取り組み内容の後退等による未達成ではないことから、「△」評価としました。

残る2つの「△」評価は、ジャンプステージのエコアクション、エコマネジメントにかかる目標です。

これらは町内の事業所に取り組みの協力を求める内容で、コロナ禍で企業への働きかけ困難な状況であったこと等を考慮し、「△」評価としました。コロナ終息後の取り組みに期待します。

その他、環境基本計画にかかる事業の達成状況について、これまでの3段階評価を見直し、「一部実施できた」を、その実施状況によって「半分以上」実施できたものと「半分以下」であったものに分けて4段階評価としたことで、より実情を反映できるようになったと考えます。

全体を通してみると、コロナ禍が継続する中で、工夫しながら取り組みを進められている様子が見えがえしました。

一方で、基準となる2019年度のスキー場の営業期間が短かったことやコロナ禍で出張機会が減少していることなど、取り組みの内容以外の部分で目標達成に影響が及んでいる項目も多く、次年度以降、それが良い方に向かうと予想されるもの・悪い方に向かうと予想されるものが混在しています。

この先も、コロナと共存していかざるを得ない状況は続くと考えられ、目標達成が難しい場面も少なくないと思いますが、環境問題は「待ったなし」であり、できることを、着実に、進めていってほしいと思います。

3.内子町環境マネジメントシステム“うちエコ”取り組み状況

(1) “うちエコ”とは

内子町は、「第2次内子町環境基本計画」や「内子町地球温暖化対策実行計画事務・事業編（第5次内子町エコオフィスプラン）」に沿って、各種の環境施策を展開しています。そしてこれらの計画を着実に実行していくため、内子町環境マネジメントシステム“うちエコ”により取り組みの進行管理を行っています。

“うちエコ”は、環境自治体会議が自治体向けに開発した環境マネジメントシステム「※1環境自治体スタンダード LAS-E(ラス・イー:Local Authority's Standard in Environment)」を土台とし、さらに内子町に適した内容となるよう独自に構築したものです。「住民参加の環境づくり」の理念の下、町民との協働による「エコロジータウン内子」の実現を目指します。

“うちエコ”の運用を通して「PLAN(計画・目標)－「DO(実行)－「CHECK(点検・評価)－「ACTION(見直し)」のサイクルを明確にし、これを繰り返すことで、取り組みの継続的な改善を図ります

[参考] 内子町における環境マネジメントシステム導入の経緯

1992年(平成4年)	環境自治体会議加入
2001年(平成13年)	内子町エコオフィスプラン策定(内部監査の実施)
2005年(平成17年)	環境自治体会議うちこ会議開催
2006年(平成18年)	内子町環境基本計画策定 環境自治体スタンダードLAS-E導入 第1ステージ合格(12月20日)
2009年(平成21年)	第2ステージ合格(12月28日)
2012年(平成24年)	第3ステージ合格(12月27日)
2017年(平成29年)	内子町環境マネジメントシステム“うちエコ”導入

※1 「環境自治体スタンダード LAS-E」は、自治体の環境に関する取り組みが環境自治体としてふさわしいかどうかをチェックするために、環境自治体会議が開発した基準で、自治体固有の特性にあわせてつくられた仕組みともいえます。その特徴として、住民参加のもとで町における環境施策の目標設定や監査を行うことを定め、住民参加の視点を重要視している点が挙げられます。

※2 部署によっては、手引き書に掲げる取り組みの内容が業務の実態と合わない場合もあるかと思いますが、その場合は適宜、実情にあわせた取り組みを行ってください。

(2) 令和3年度うちエコ監査

昨年度の監査は書面監査でしたが、書面のみでは評価が難しいという意見が多く、今年度は従来通り実地監査を実施しました。今回の監査では、対応者は実行責任者とエコアップ推進員の2名に限定、部署内の見回りは中止、また監査時間を30分と短縮し、コロナ対策を行ったうえで実施しました。結果として、実地監査の方が実情を捉えやすく、評価も現実に即して行えたという意見が多く、来年度以降も情勢を確認しつつ、実地監査が行えるよう計画・改善を図っていきます。

なお例年と同様に、町の環境政策にかかる研修の一環として今年度新規採用職員も監査に参加しました。

① 監査の日程・方法

監査日程：推進本部 令和4年1月19日(水)
 実行部門等 令和4年1月19日(水)・21日(金)・24日(月)
 全体協議 令和4年1月26日(水)
監査方法：監査員による聞き取りを含めた実地調査

② 対象部署

NO.	区 分	部 署 名 等
1	推進本部	町長
		副町長
		教育長
2	実行部門	総務課
3		会計課
4		住民課
5		うちこ福祉館
6		保健福祉課
7		保健センター
8		建設デザイン課
9		町並・地域振興課
10		ビジターセンター
11		自治・学習課
12		議会事務局

13		五十崎児童館きらり
14		子育て支援センター
15		地域活動支援センターかいと
16		小田幼稚園
17		内子小学校
18		立川小学校
19		天神小学校
20		内子東自治センター
21		五十崎自治センター
22		特別養護老人ホームみどり苑
23		特別養護老人ホーム神南荘
24		内子フレッシュパークからり
25	事務局	環境政策室

③ 監査結果

1) 総合所見

令和3年度のうちエコ監査は、推進本部・実行部門・事務局、計25の部署等を対象に実施しました。

このうち実行部門の監査について、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で初めて書面での実施としましたが、対象部署および監査員の双方から「書面では十分に取り組みの内容が伝わらない」との意見が複数寄せられました。このため本年度は、時間を30分に限定し、聞き取りの相手方を各部署等の長およびエコアップ推進員のみとして執務室等の見回りは行わないなど、感染対策に配慮した上で対面による監査を行わせていただきました。対象部署等の皆さまのご協力に深く感謝申し上げます。

評価の方法は、取り組みの内容や目標の達成状況について、☆（特に優れた取り組み）◎（良好な取り組み）○（取り組んでいる）△（改善要望事項）×（勧告事項）の5段階で判断しました。その結果、☆6個、◎44個、△2個となりました。

全体を通して、従来から取り組んできている基本的な環境対策がおおむね定着し、着実に実践されている様子がうかがえます。

その中で「☆」となった部署等については、従来の課題の改善を図り、さらに新しい取り組みをスタートするなど、より高いレベルで積極的に取り組みが進められている点を高く評価しました。

また一昨年度から続くコロナ禍の中で、引き続き事業の変更や中止を余儀なくされる場面が少なくないものの、内容や方法を工夫するなどして何とか実施につなげていこうとする姿勢が多く見られました。中にはWEB会議を積極的に採用することで出張にかかる燃料費等の削減や時間の有効活用、ペーパーレス化の推進を図っている例や、県内の親子や修学旅行生などを呼び込む体験活動を企画・実施して観光客数を増やしている例などもあり、逆境をも1つの契機として成果につなげられていることを頼もしく感じます。

一方で、2050年の脱炭素社会実現を目指すという国の方針により、自治体や家庭に対してこれまで以上にハードルの高い温室効果ガス排出量の削減目標が示されており、今後の取り組みはより困難になることが予想されます。公共施設等における太陽光発電の設置や電気自動車の導入に向けた検討が進められているとのことですが、それらの情報を町民に対して発信していくとともに、学習の機会等の提供を進めていくことが重要であると考えます。

うちエコを通して、内子町の取り組みが町民により広く深く浸透し、家庭や職場などでも生かされて、町全体でエコロジータウン内子の実現につながっていくことを期待します。

④ 評価結果

1) 推進本部

NO	設問内容	評価						
		☆	◎	○	△	×	/	—
1	町長／方針の設定・周知		1					
2	町長／環境基本計画の推進（協議・指示）			1				
3	町長／EMSの運用・改善			1				
4	副町長／エコオフィスの推進			1				
5	副町長／エコオフィスの推進		1					
6	教育長／環境教育の推進（環境学習）		1					
7	教育長／環境教育の推進（地域の環境活動）			1				
合 計		0	3	4	0	0	0	0
達 成 率（○以上の項目／全6問）		100%						

2) 実行部門

NO	設問内容	評価						
		☆	◎	○	△	×	/	—
1	環境基本計画の内容と実施状況		2	5			16	
2	独自目標の内容と達成見込	3	6	14				
3	独自目標の改善	1	3	15	1			3
4	エコオフィスの推進（節電）		2	19	1		1	
5	エコオフィスの推進（その他燃料の節減）	1	2	10			6	4
6	エコオフィスの推進（紙の使用量削減と分別）		2	17				4
7	エコオフィスの推進（グリーン購入）		2	16				5
8	町民や事業者等との連携	1	9	10			2	1
9	公共事業における環境配慮		1	9			12	1
10	職場での情報共有		2	16				5
11	全般（その他取り組みの工夫）		6	10				7
12	地域環境への関心		1	14				8
13	全般（各人の環境配慮の取り組み）		2	12				9
14	全般（うちエコに関する意見・要望）	(評価対象外)						
合 計		6	40	167	2	0	37	47
達 成 率（○以上の項目／全15問×20部署） ※該当なし項目（—）を除く		99%						

3) 事務局

NO	設問内容	評価						
		☆	◎	○	△	×	/	—
1	基本方針の周知・理解			1				
2	環境に関する定期的研修			1				
3	首長との協議			1				
4	目標達成状況の公開			1				
5	指摘事項の改善		1					
6	全般（取り組みの工夫・改善）			1				
7	システム全般（うちエコの運用）			1				
8	システム全般（監査の工夫・改善）			1				
9	システム全般（監査の評価）			1				
10	システム全般（監査の報告）			1				
合 計		0	1	9	0	0	0	0
達成率（○以上の項目／全12問） ※該当なし項目（—）を除く		100%						

—監査の様子—



推進本部監査



全体協議

(3) エコ見回り

今年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、多くが中止になってしまいました。しかしその様な状況下においても規模の縮小や感染対策を徹底することにより、五十崎こども園と内子小学校にて実施されました。実施方法を工夫することでエコ活動を継続されており、取り組みが浸透していることがうかがえます。

① 五十崎こども園のエコ見回り

実施日：令和4年3月17日（木）

訪問先：内子町役場本庁舎

町民会館

五十崎自治センター

内 容：水回りを中心とした見回りと
結果報告・感想発表



水回りをチェック（五十崎自治センター）

② 内子小学校2年生のエコ見回り

実施日：令和3年11月24日（水）

訪問先：内子総合窓口センター

農林振興課

公益財団法人内子町国際交流協会

内子自治センター

内子町図書情報館

内子児童館

環境NPO サン・ラブ

八日市・護国町並保存センター

内 容：職場インタビューと電気・水・紙ゴミ分別の見回り



封筒や紙の再利用をチェック（内子分庁）



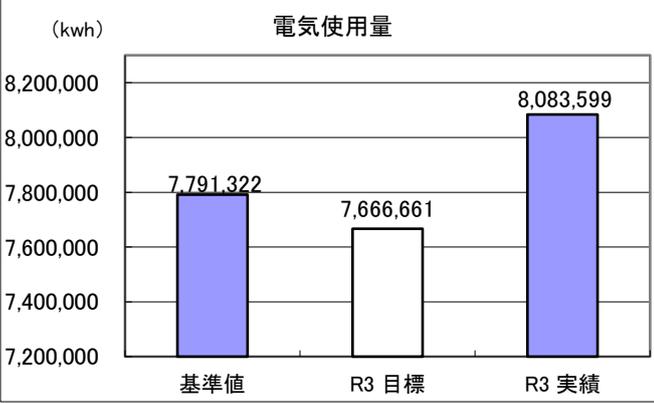
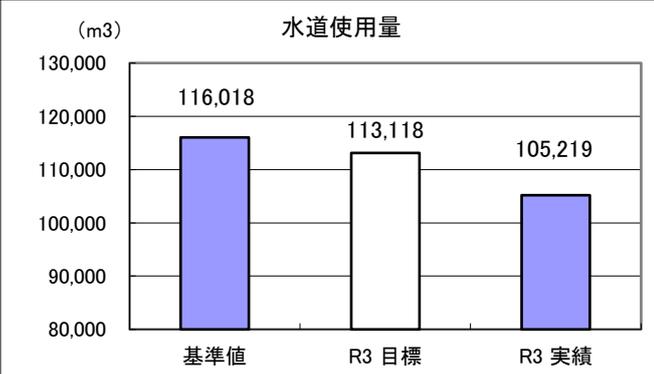
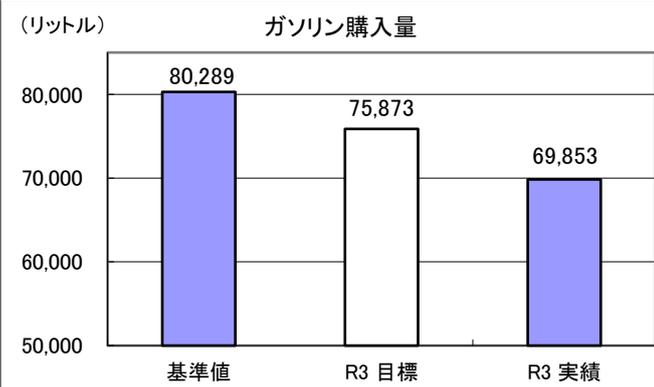
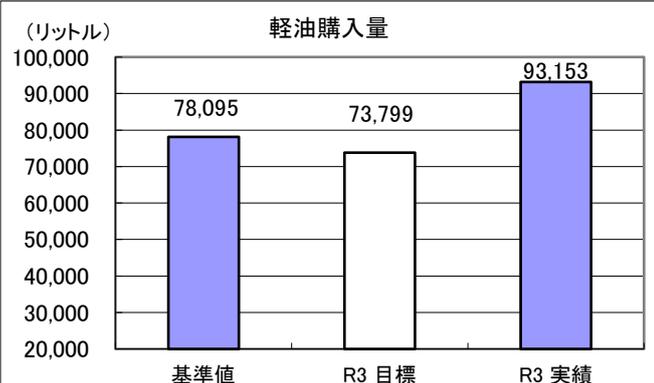
古民家で環境配慮の説明を聞いている様子

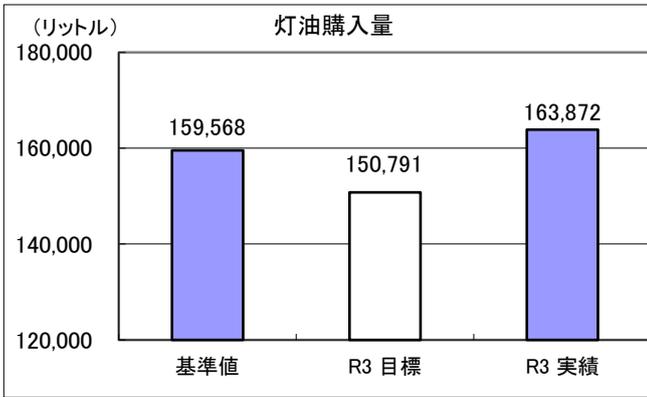
4. 内子町エコオフィスパラン

(1) 令和3年度の取り組み状況

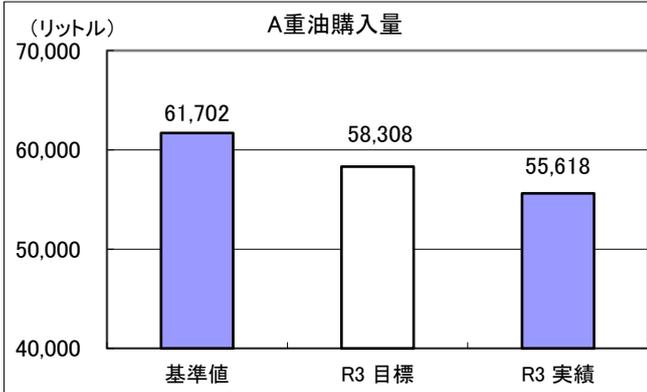
内子町エコオフィスパランは、「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づく地球温暖化対策実行計画（事務事業編）として策定しており、令和3年度は第5次計画期間（令和3年度～令和7年度）の最初の年度となります。

令和3年度の取り組み状況は、次のとおりです。

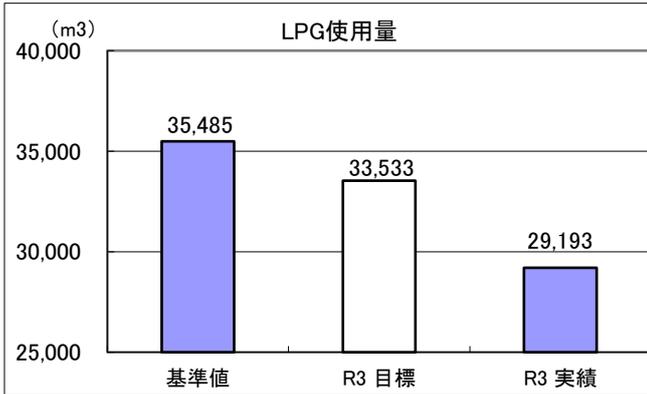
<p>(kwh) 電気使用量</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準値</td> <td>7,791,322</td> </tr> <tr> <td>R3 目標</td> <td>7,666,661</td> </tr> <tr> <td>R3 実績</td> <td>8,083,599</td> </tr> </tbody> </table>	項目	値	基準値	7,791,322	R3 目標	7,666,661	R3 実績	8,083,599	<p>項目: 電気使用量 目標→R1 年度実績比 1.6%減 結果→3.1%増 (×) 考察: 電気使用量の合計は 8,083,599kwh で、1.6%の削減目標に対し、3.8%の増加となり、目標を達成できませんでした。 本庁・分庁・小田支所すべてで基準年度を上回る結果となりました。コロナ対策で換気を行いながらの空調利用が主な要因と考えられます。 その他の施設でも同様に、コロナ対策として換気を行いながらの空調利用、換気扇や空気清浄機の利用による電気使用量の増加がみられました。またソルファ小田のグレンデが基準年度と比べて長い期間営業していたことも要因になると思われます。 状況に合わせてつ、こまめな消灯や設定変更など、できる範囲で日頃から節電に努めましょう。また設備等の新設・更新の際は、省エネ機器の積極的な導入をお願いします。</p>
項目	値								
基準値	7,791,322								
R3 目標	7,666,661								
R3 実績	8,083,599								
<p>(m3) 水道使用量</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準値</td> <td>116,018</td> </tr> <tr> <td>R3 目標</td> <td>113,118</td> </tr> <tr> <td>R3 実績</td> <td>105,219</td> </tr> </tbody> </table>	項目	値	基準値	116,018	R3 目標	113,118	R3 実績	105,219	<p>項目: 水道使用量 目標→R1 年度実績比 2.5%減 結果→9.3%減 (○) 水道使用量の合計は 105,219m3 で、2.5%の削減目標に対し、9.3%の減となり、目標を達成しました。5年連続の達成となります。 引き続き、限りある水資源の有効利用にご協力をお願いします。</p>
項目	値								
基準値	116,018								
R3 目標	113,118								
R3 実績	105,219								
<p>(リットル) ガソリン購入量</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準値</td> <td>80,289</td> </tr> <tr> <td>R3 目標</td> <td>75,873</td> </tr> <tr> <td>R3 実績</td> <td>69,853</td> </tr> </tbody> </table>	項目	値	基準値	80,289	R3 目標	75,873	R3 実績	69,853	<p>項目: ガソリン購入量 目標→R1 年度実績比 5.5%減 結果→13.1%減 (○) 考察: ガソリン購入量は 69,853 リットルで、5.5%の削減目標に対して 13.1%の減となり、大幅に目標を達成しました。 ガソリンは、主に公用車の燃料に使用されています。 減少の理由としては、昨年と同様コロナの影響により、年間を通じて出張の機会が減ったことが主な理由と考えられます。 引き続き、近距離の移動はできるだけ徒歩や自転車利用とし、車利用時はエコドライブに努め、また公用車の購入時はエコカーを導入するなど、削減の取り組みをお願いします。</p>
項目	値								
基準値	80,289								
R3 目標	75,873								
R3 実績	69,853								
<p>(リットル) 軽油購入量</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準値</td> <td>78,095</td> </tr> <tr> <td>R3 目標</td> <td>73,799</td> </tr> <tr> <td>R3 実績</td> <td>93,153</td> </tr> </tbody> </table>	項目	値	基準値	78,095	R3 目標	73,799	R3 実績	93,153	<p>項目: 軽油購入量 目標→R1 年度実績比 5.5%減 結果→19.3%増 (×) 考察: 軽油購入量は 93,153 リットルで、5.5%の削減目標に対し、19.3%の増加となり、目標を達成できませんでした。 軽油は、主にバスなどの公用車やスキー場の降雪機の燃料に使用されています。 今年度はソルファ小田が基準年度に比べて長期間営業していたこともあり、増加したと考えられます。</p>
項目	値								
基準値	78,095								
R3 目標	73,799								
R3 実績	93,153								



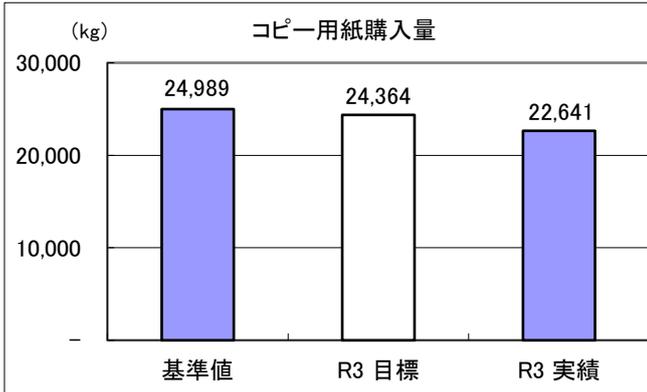
項目: 灯油購入量
 目標→R1 年度実績比 5.5%減
 結果→2.7%増 (×)
 考察:
 灯油購入量は 163,872 リットルで、5.5%の削減目標に対し、2.7%の増加となり、目標値を達成できませんでした。
 灯油は、一部施設の冷暖房や、クリーンセンターの助燃材などに使用されています。
 電気使用量と同じく、コロナ対策として換気をしながらの暖房機器の利用となったため、例年に比べて多く使用する施設がありました。またソルファ小田が長期間営業していたことも使用量増加の要因の一つと考えられます。
 灯油利用の暖房設備を更新する際には、バイオマス機器の導入を検討するなど、使用量の削減にご協力をお願いします。



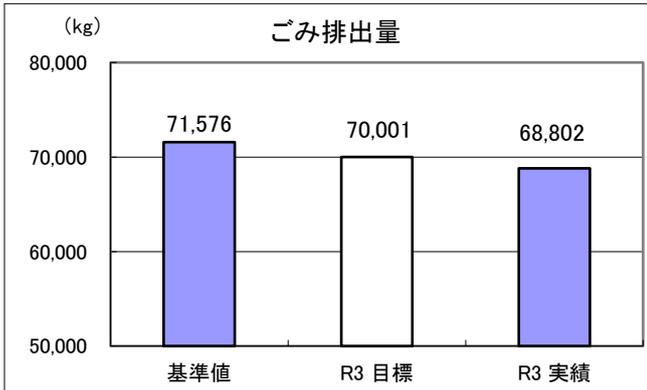
項目:A 重油購入量
 目標→R1 年度実績比 5.5%減
 結果→9.9%減 (○)
 考察:
 A重油購入量は 55,618 リットルで、5.5%の削減目標に対し、9.9%の減となり、目標を達成しました。
 A重油は、主に給食センターや指定管理施設の給湯器、空調機などの燃料に使用されています。
 減少の理由としては、非常用発電機に使用しなかったこと、たばこ育苗センターでの購入量が基準年に比べ少なかったことなどが挙げられます。



項目:LPG 購入量
 目標→R1 年度実績比 5.5%減
 結果→17.7%減 (○)
 考察:
 LPG購入量は 29,193m3 で、5.5%の削減目標に対し、17.7%の減となり、目標を達成しました。
 LPGは、主に調理や給湯に使用されています。
 コロナで調理実習などの事業が中止したこともあり、多くの施設において使用量が減少したことが目標達成につながりました。

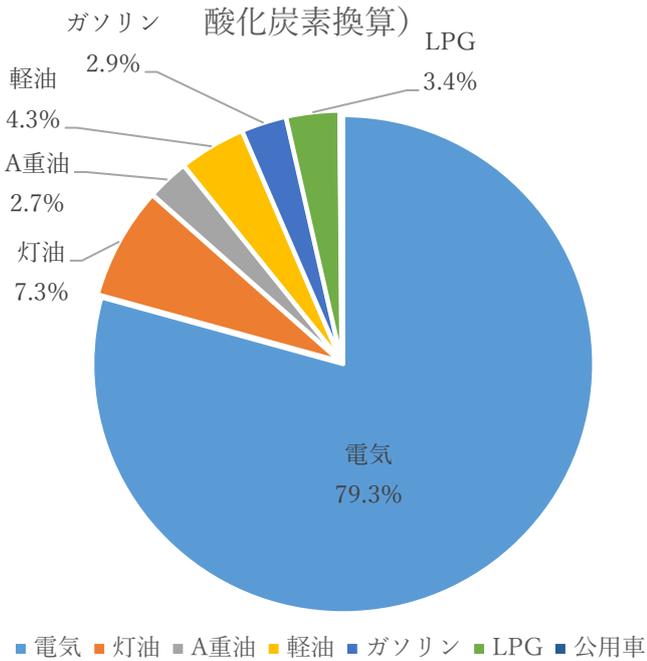


項目:コピー用紙購入量
 目標→R1 年度実績比 2.5%減
 結果→9.4%減 (○)
 考察:
 コピー用紙購入量は 22,641 kgで、2.5%減の目標に対し、9.4%の減となり、目標を達成することができました。
 基準年度以降に文書管理システムが導入されたことが削減の要因と考えられます。
 今後も用紙の裏紙利用やリサイクルの徹底、電子決裁など、日常業務でこまめな削減をお願いします。



項目:ごみ排出量
 目標:R1 年度実績比 2.2%減
 結果→3.9%減 (○)
 ごみ排出量は 68,802kg で、2.2%の削減目標に対し、3.9%の減となり、目標を達成することができました。
 引き続きリサイクル可能な紙ごみの分別、私的なごみの持ち帰りの徹底など、取り組みの継続をお願いします。

令和3年度 温室効果ガス排出量（二酸化炭素換算）



項目：温室効果ガス排出量

目標→R1 年度実績比 1.6 減

結果→10.4%増(×)

考察：

温室効果ガス排出量は 5,605,684kg-CO₂ で、1.6%の削減目標に対し、10.1%の増加となり、目標を達成できませんでした。

今年度は電気・灯油・軽油の項目で基準年度を上回りました。ただ、ソルファ小田の長期間の営業、コロナ対策として換気をしながら空調設備の利用など、致し方ない部分もあると思います。また二酸化炭素の排出係数が基準年度より高くなったことも上回った理由と考えられます。

また削減ができていない項目も、コロナの影響を受けている部分が多く、コロナが落ち着いていくと同時に排出量も増加していくことが見込まれます。

今年度削減できていた項目は、実はコロナのおかげだったと言われたいよう、引き続き各部署でのご協力をよろしくお願いします。

※令和3年度 温室効果ガス排出量算定

項目	温室効果ガス	使用量等	排出係数	地球温暖化係数	二酸化炭素換算排出量
電気使用量	二酸化炭素	8,083,599 kwh	0.550	1	4,445,979 kg-CO ₂
灯油購入量	二酸化炭素	163,872 リットル	2.49	1	408,041 kg-CO ₂
A重油購入量	二酸化炭素	55,618 リットル	2.71	1	150,725 kg-CO ₂
軽油購入量	二酸化炭素	93,153 リットル	2.58	1	240,334 kg-CO ₂
ガソリン購入量	二酸化炭素	69,853 リットル	2.32	1	162,058 kg-CO ₂
LPG 使用量	二酸化炭素	29,193 m ³	6.55	1	191,216 kg-CO ₂
公用車走行距離	メタン	973,808 km	—	21	7,336 kg-CO ₂
	一酸化二窒素		—	310	
					5,605,689 kg-CO ₂

※令和1年度 温室効果ガス排出量算定

項目	温室効果ガス	使用量等	排出係数	地球温暖化係数	二酸化炭素換算排出量
電気使用量	二酸化炭素	7,791,322 kwh	0.500	1	3,895,661 kg-CO ₂
灯油購入量	二酸化炭素	159,568 リットル	2.49	1	397,324 kg-CO ₂
A重油購入量	二酸化炭素	61,702 リットル	2.71	1	167,212 kg-CO ₂
軽油購入量	二酸化炭素	78,095 リットル	2.58	1	201,485 kg-CO ₂
ガソリン購入量	二酸化炭素	80,289 リットル	2.32	1	186,270 kg-CO ₂
LPG 使用量	二酸化炭素	35,485 m ³	6.55	1	232,427 kg-CO ₂
公用車走行距離	メタン	1,157,818 km	—	21	8,847 kg-CO ₂
	一酸化二窒素		—	310	
					5,089,226 kg-CO ₂

公共用水域水質測定分析結果一覧表 令和3年度

地 区	小田地区(2箇所)		内 子 地 区 (15箇所)														
	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13	No.14	No.15	No.16	No.17
測 点	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13	No.14	No.15	No.16	No.17
水 域	小田川 上流	田渡川 下流	景山川 下流	景山川 上流	熊ノ滝川 上流	鞠川 下流	小田川 中流1	麓川 上流	麓川 下流	中山川 上流	中山川 下流	清正川 上流	清正川 下流1	清正川 下流2	小田川 中流2	郷の谷川 上流	郷の谷川 下流
採水場所	安平橋・妙見橋下 打木川との合流地 点	突合バス停上	程内 河崎橋	養豚場 排水合流 地点	熊ノ滝 集落	大久保口 バス停前	大瀬 旧成屋橋下	石畳小学校 正門前	麓川 出口	立川 自治会館裏	宿苅 バス停前	坂井建設 橋下	朝日橋上	清正川 出口	知清橋下	道の奥 排水路出口	保健センター横
採水月日	9月15日	9月15日	9月15日	9月15日	9月15日	9月15日	9月15日	9月15日	9月15日	8月26日							
採水時刻	14:00	14:25	11:20	11:35	12:00	11:00	10:30	09:45	09:10	14:40	14:10	13:40	13:15	13:05	11:20	11:00	10:25
測定項目	基準値																
天候	曇り	曇り	曇り	雨	雨	雨	雨	雨	雨	晴れ							
気温(°C)	31.3	30.0	25.2	26.2	26.4	26.6	25.2	26.0	25.7	35.0	36.7	31.7	34.1	33.2	33.4	28.5	33.3
湿度(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
水温(°C)	21	22	22	20	20	21	22	20	21	24	25	28	31	31	24	23	25
流量(m³/min)	39	110	2.8	1.0	12	12	170	26	42	120	120	0.4	0.6	0.6	730	1.8	5.2
pH	8.0	8.7	7.4	7.2	7.4	7.8	8.1	8.0	8.1	8.4	8.3	8.0	10.2	10.4	8.1	7.8	7.9
(水温)	(23 °C)	(23 °C)	(24 °C)	(24 °C)	(24 °C)	(24 °C)	(24 °C)	(24 °C)	(24 °C)	(27 °C)							
DO(mg/L)	9.2	9.7	9.3	6.5	9.4	9.9	9.8	9.7	10.1	9.1	9.3	6.6	13.2	10.8	9.1	8.2	9.4
BOD(mg/L)	<0.5	<0.5	2.5	180	<0.5	<0.5	0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	1.0	0.5	1.9	<0.5	<0.5	<0.5
COD(mg/L)	1.5	2.2	3.6	130	3.1	1.7	2.3	1.9	1.9	1.4	1.4	7.0	6.3	7.5	1.6	6.0	3.5
SS(mg/L)	13	1	7	210	3	7	2	6	1	<1	<1	2	1	3	3	3	1
大腸菌群数 (MPN/100mL)	54,000	22,000	240	160,000	49	13,000	1,400	22,000	24,000	17,000	35,000	7,900	7.8	4.5	4,900	2,200	17,000
n-ヘキサン抽出 物質(mg/L)	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	5.6	検出さ れない												
全窒素(mg/L)	0.55	0.52	1.7	8.7	0.45	0.72	0.55	0.71	0.65	0.98	0.85	0.46	0.38	0.43	0.63	0.50	0.44
全リン(mg/L)	0.027	0.009	0.099	8.2	0.011	0.021	0.015	0.017	0.016	0.020	0.018	0.11	0.13	0.13	0.016	0.088	0.090
カドミウム(mg/L)	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003	0.0035	0.0003	0.0003 未満											
シアン(mg/L)	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない
鉛(mg/L)	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満
六価クロム(mg/L)	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満
砒素(mg/L)	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満
総水銀(mg/L)	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満
溶解性鉄(mg/L)			<0.02	0.41	0.02												
銅(mg/L)			0.2	3.0	0.1												
【参考】 類型 ※	AA	X	B	E	AA	B	X	X	AA	AA	AA						

※類型は、参考として、大腸菌群数を除く「生活環境の保全に関する環境基準」に基づき評価しています。
 大腸菌群数は、検査日前の降雨の状況(水・水温・水質・流量)が水がせき止められると大腸菌群数の増加要因となること)や田
 畑からの土壌の流入による土壌由来によるものなど様々な要因で大きく増減することが知られていることから対象としていません。

新規採水場所
 ... 今年度検査で基準値オーバーとなったもの
 ... 昨年度と今年度の2年連続で基準値オーバーとなったもの
 ... 昨年度検査で基準値オーバーであったが、今年度検査で改善されたもの

公共用水域水質測定分析結果一覧表 令和3年度

地 区		五 十 崎 地 区 (17箇所)																
測 点	No.18	No.19	No.20	No.21	No.22	No.23	No.24	No.25	No.26	No.27	No.28	No.29	No.30	No.31	No.32	No.33	No.34	
水 域	牛の谷川下流	新川上流1	新川上流2	新川下流	大久保谷川上流	大久保谷川下流1	大久保谷川下流2	大久保谷川下流3	門松川下流	女体川下流	柿原川中流	大久喜養豚場下流	しゅうご谷川下流	山王川上流	小田川下流	中の谷川	田野々川下流	
採水場所	牛の谷川橋上	新川上流①	新川上流②	新川出口	香林寺駐車場	大久保谷川浄化設備取水口	大久保谷川浄化設備排水口	西沖集会所前	門松川出口	女体川下流	柿原川中流	大久喜養豚場下流	しゅうご谷川下流	久保工業(株)倉庫裏	瑞穂橋	小林作業所横	黒内坊上流	
採水月日	8月26日	8月26日	8月26日	8月26日	7月29日	7月29日	7月29日	7月29日	7月29日	7月29日	7月29日	7月29日	7月29日	7月29日	7月29日	7月29日	7月29日	
採水時刻	09:10	10:00	09:40	09:20	10:00	09:25	09:35	09:45	10:45	11:20	11:00	12:30	13:00	13:30	13:45	14:00	14:30	
測定項目	基準値																	
天候	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	
気温(°C)	31.5	30.0	32.0	34.1	31.0	31.2	30.5	33.2	36.8	38.0	34.0	28.6	29.5	38.6	37.6	31.8	37.2	
湿度(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
水温(°C)	26	22	22	25	27	26	26	27	28	31	28	21	19	29	30	30	30	
流量(m³/min)	1.9	0.7	0.5	0.6	0.1	0.1	3.7	0.4	5.2	0.2	0.8	0.1	0.2	0.4	270	5.4	0.2	
pH	7.9	8.0	8.0	8.1	7.7	7.5	7.5	7.9	7.9	9.3	8.1	7.6	7.8	7.9	7.9	8.3	9.2	
(水温)	(27 °C)	(27 °C)	(27 °C)	(27 °C)	(22 °C)	(23 °C)	(23 °C)	(23 °C)	(24 °C)	(24 °C)	(24 °C)	(23 °C)	(24 °C)	(24 °C)	(24 °C)	(25 °C)	(25 °C)	
DO(mg/L)	9.6	8.0	8.1	8.8	6.5	4.9	5.5	7.9	8.0	10.5	8.6	8.1	9.2	8.9	8.3	6.2	12.1	
BOD(mg/L)	<0.5	0.8	<0.5	0.9	1.4	7.1	3.8	0.8	0.9	2.5	0.9	<0.5	<0.5	0.7	0.5	1.6	1.4	
COD(mg/L)	3.1	3.3	3.6	4.1	3.6	16	6.3	1.6	2.5	5.3	3.1	2.6	0.5	1.4	1.7	11	4.1	
SS(mg/L)	2	15	15	5	3	5	5	<1	3	4	13	3	<1	<1	<1	2	1	
大腸菌群数(MPN/100mL)	92,000	22,000	92,000	7,900	13,000	33	28,000	24,000	17,000	92,000	14,000	13,000	2,400	330	17,000	35,000	7,900	
n-ヘキサン抽出物質(mg/L)	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	
全窒素(mg/L)	0.38	1.1	1.0	1.2	0.46	5.3	3.9	0.41	0.56	2.1	0.46	0.83	0.21	0.34	0.51	5.5	0.30	
全リン(mg/L)	0.087	0.15	0.18	0.28	0.047	1.3	0.64	0.024	0.094	0.12	0.068	0.045	0.003	0.013	0.022	2.5	0.062	
カドミウム(mg/L)	0.0003未滿	0.0003未滿	0.0003未滿	0.0003未滿	0.0003未滿	0.0003未滿	0.0003未滿	0.0003未滿	0.0003未滿	0.0003未滿	0.0003未滿	0.0003未滿	0.0008	0.0012	0.0003未滿	0.0003未滿	0.0003未滿	
シアン(mg/L)	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	
鉛(mg/L)	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	
六価クロム(mg/L)	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	
砒素(mg/L)	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	0.005未滿	
総水銀(mg/L)	0.0005未滿	0.0005未滿	0.0005未滿	0.0005未滿	0.0005未滿	0.0005未滿	0.0005未滿	0.0005未滿	0.0005未滿	0.0005未滿	0.0005未滿	0.0005未滿	0.0005未滿	0.0005未滿	0.0005未滿	0.0005未滿	0.0005未滿	
溶解性鉄(mg/L)													<0.02	<0.02				
銅(mg/L)													<0.1	<0.1				
【参考】類型※	AA	AA	AA	AA	B	D	C	AA	AA	X	AA	AA	AA	AA	AA	B	X	

... 新規採水場所
... 今年度検査で基準値オーバーとなったもの
... 昨年度と今年度の2年連続で基準値オーバーとなったもの
... 昨年度検査で基準値オーバーであったが、今年度検査で改善されたもの

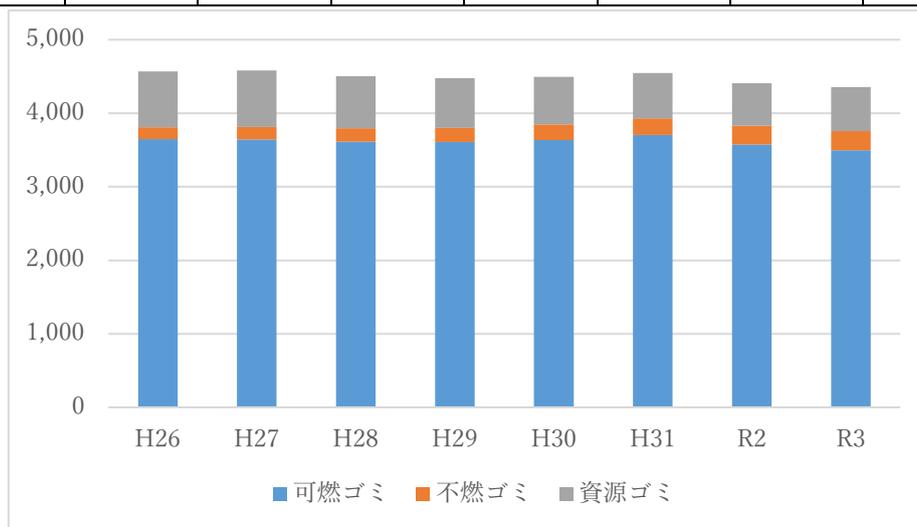
※類型は、参考として、大腸菌群数を除く「生活環境の保全に関する環境基準」に基づき評価しています。
 大腸菌群数は、検査日前の降雨の状況・流量・水温・水の流れる状況(水がせき止められると大腸菌群数の増加要因となること)や田畑からの土壌の流入による土壌由来によるものなど様々な要因で大きく増減することが知られていることから対象としていません。

(2) ゴミ

① ゴミ排出量 事業系ゴミを含む

(単位：t)

収集区分	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
可燃ゴミ	3,647	3,645	3,612	3,611	3,637	3,706	3,573	3,495
不燃ゴミ	161	168	185	191	213	223	257	261
資源ゴミ	760	770	707	674	644	619	580	601
合計	4,568	4,583	4,504	4,446	4,494	4,548	4,410	4,357



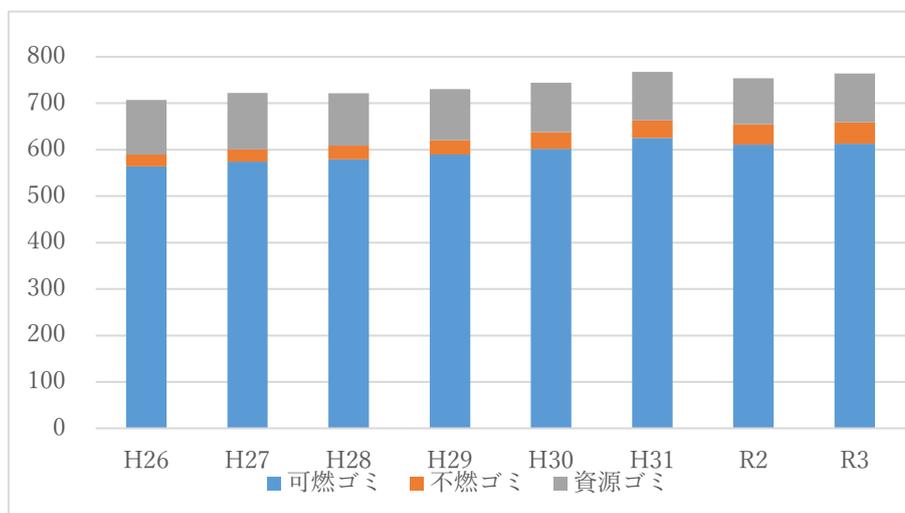
② ゴミ排出量・資源排出量 (一人一日当たりのゴミ・資源排出量)

(単位：g)

収集区分	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
可燃ゴミ	564	574	579	589	602	625	611	613
不燃ゴミ	25	26	30	31	35	38	44	46
資源ゴミ	118	121	113	110	107	104	99	105
合計	707	722	722	730	744	768	754	764

一人一日当たりのゴミの排出量＝総ゴミ量÷各年の10/1時点の人口÷各年の日数

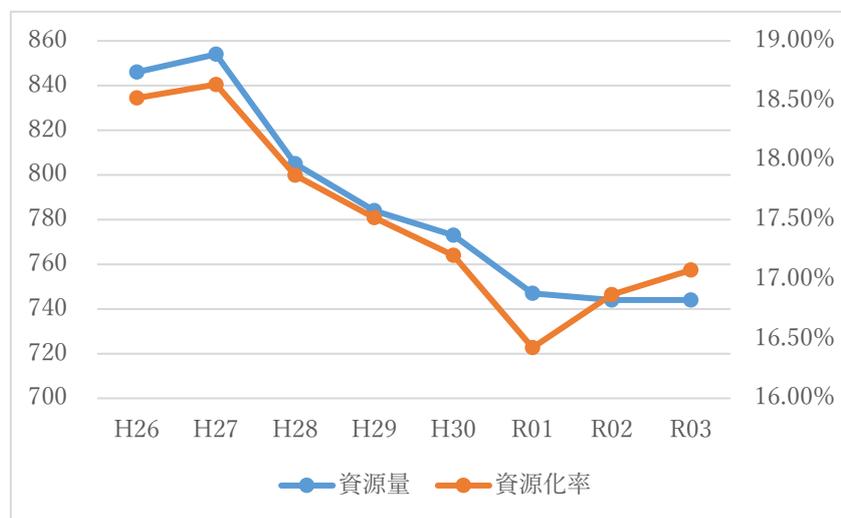
※四捨五入の関係で、数値に若干のずれがあります。ご了承ください。



③ ゴミ資源化率

事業系ゴミを含む (単位: t)

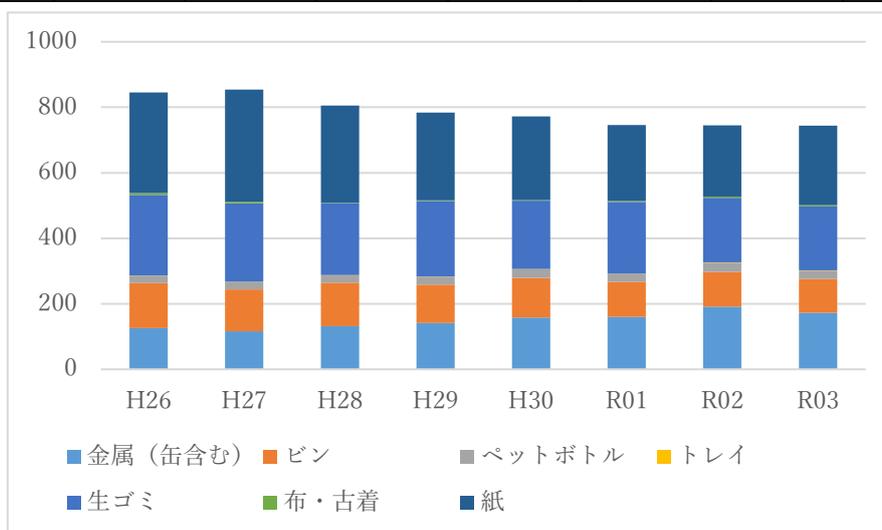
	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
資源量	846	854	805	784	773	747	744	744
資源化率	18.52%	18.63%	17.87%	17.52%	17.20%	16.42%	16.87%	17.08%



④ ごみ資源化量内訳

(単位: t)

	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
金属 (缶含む)	126	116	132	141	158	160	191	173
ビン	137	128	132	117	121	107	106	103
ペットボトル	22	22	23	24	26	24	29	25
トレイ	1	1	1	1	1	1	1	1
生ゴミ	246	240	220	231	209	219	197	195
布・古着	6	5	1	2	2	3	3	4
紙	307	342	296	268	255	232	218	243
合計	845	854	805	784	772	746	745	744



⑤ 焼却処理量 事業系ゴミ含む

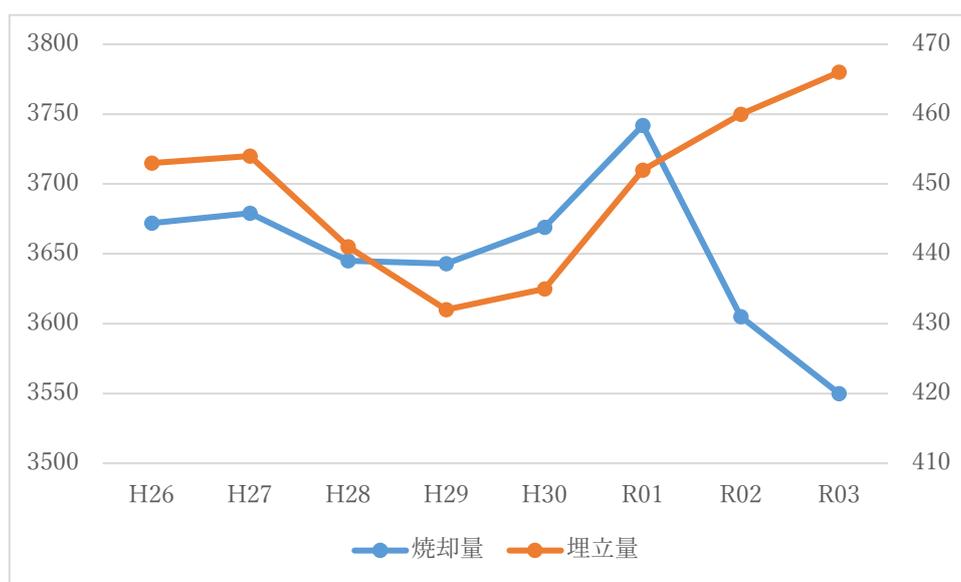
(単位：t)

	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
焼却量	3672	3679	3645	3643	3669	3742	3605	3550

⑥ 埋立処理量 事業系ゴミ含む

(単位：t)

	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
埋立量	453	454	441	432	435	452	460	466



(3) 再生可能エネルギー

再生可能エネルギー発電設備の導入状況等について（令和4年3月末現在）

- ・移行認定分：固定価格買取制度が開始されるH24.6月末までに設置した設備のうち、固定価格買い取り制度に移行したもの。
- ・新規認定分：固定価格買取制度が始まったH24.7月以降に設置されたもの。

太陽光発電設備									
		移行認定分(実績)				新規認定分(実績)			
10kW未満	10kW未満	10kW以上		10kW以上		10kW未満	うち自家発電設備併設	10kW以上	
		うち50kW未満	うち50kW以上	うち50kW未満	うち50kW以上			うち50kW未満	うち50kW以上
598kW(140件数)	1275kW(225件数)	24kW(5件数)	3589kW(96件数)	2314kW(92件数)	1275kW(4件数)	0	0	0	0

松山市	28895kW(7201件数)	2065kW(105件数)	1608kW(99件数)	458kW(6件数)	0	52475kW(10392件数)	2576kW(637件数)	125578kW(2511件数)	51959kW(2434件数)	10563kW(43件数)	9823kW(14件数)	26392kW(17件数)	26840kW(3件数)
今治市	8879kW(2094件数)	303kW(13件数)	193kW(11件数)	110kW(2件数)	0	16711kW(3156件数)	536kW(122件数)	118036kW(1821件数)	54848kW(1736件数)	9237kW(42件数)	13005kW(20件数)	35947kW(22件数)	4999kW(1件数)
宇和島市	2901kW(682件数)	98kW(2件数)	11kW(1件数)	87kW(1件数)	0	4342kW(817件数)	64kW(16件数)	21895kW(452件数)	11741kW(428件数)	6130kW(19件数)	2000kW(3件数)	2025kW(2件数)	0
八幡浜市	946kW(231件数)	139kW(7件数)	139kW(7件数)	0	0	1647kW(313件数)	52kW(14件数)	2528kW(109件数)	2068kW(106件数)	460kW(3件数)	0	0	0
新居浜市	6524kW(1587件数)	120kW(8件数)	120kW(8件数)	0	0	12400kW(2436件数)	448kW(114件数)	102048kW(983件数)	25057kW(905件数)	14999kW(58件数)	9867kW(15件数)	4000kW(4件数)	48125kW(1件数)
西条市	7246kW(1726件数)	244kW(0件数)	244kW(11件数)	0	0	12116kW(2271件数)	165kW(39件数)	148159kW(1294件数)	34767kW(1195件数)	16362kW(65件数)	10018kW(15件数)	23012kW(16件数)	64000kW(3件数)
大洲市	1663kW(391件数)	208kW(9件数)	208kW(9件数)	0	0	2554kW(482件数)	76kW(18件数)	11862kW(173件数)	4041kW(155件数)	3071kW(12件数)	2500kW(4件数)	2250kW(2件数)	0
伊予市	2513kW(604件数)	786kW(16件数)	236kW(15件数)	0	550kW(1件数)	4690kW(903件数)	151kW(38件数)	11321kW(254件数)	5263kW(240件数)	2513kW(9件数)	2546kW(4件数)	1000kW(1件数)	0
四国中央市	4195kW(994件数)	215kW(12件数)	165kW(11件数)	50kW(1件数)	0	8181kW(1557件数)	336kW(80件数)	54825kW(877件数)	23381kW(788件数)	15975kW(73件数)	4749kW(8件数)	10721kW(8件数)	0
西予市	1844kW(441件数)	22kW(2件数)	22kW(2件数)	0	0	3390kW(595件数)	51kW(13件数)	26136kW(384件数)	11680kW(351件数)	6175kW(24件数)	3692kW(5件数)	4589kW(4件数)	0
東温市	3362kW(819件数)	440kW(9件数)	140kW(8件数)	300kW(1件数)	0	4792kW(924件数)	185kW(42件数)	20300kW(329件数)	7910kW(313件数)	2105kW(8件数)	1266kW(2件数)	9019kW(6件数)	0
上島町	137kW(27件数)	0	0	0	0	658kW(134件数)	0	3435kW(92件数)	2701kW(89件数)	735kW(3件数)	0	0	0
久万高原町	147kW(38件数)	0	0	0	0	361kW(54件数)	3kW(1件数)	4602kW(40件数)	1217kW(35件数)	888kW(3件数)	500kW(1件数)	1998kW(1件数)	0
松前町	2069kW(510件数)	160kW(4件数)	60kW(2件数)	100kW(2件数)	0	4447kW(856件数)	151kW(38件数)	12839kW(208件数)	3918kW(189件数)	2042kW(11件数)	3879kW(5件数)	3000kW(3件数)	0
砥部町	1351kW(330件数)	30kW(1件数)	30kW(1件数)	0	0	2037kW(393件数)	58kW(14件数)	8204kW(103件数)	2333kW(96件数)	781kW(3件数)	850kW(1件数)	4240kW(3件数)	0
伊方町	133kW(32件数)	20kW(1件数)	20kW(1件数)	0	0	248kW(50件数)	3kW(1件数)	3976kW(59件数)	1855kW(54件数)	1341kW(4件数)	800kW(1件数)	0	0
松野町	182kW(40件数)	0	0	0	0	287kW(50件数)	0	4045kW(54件数)	1893kW(51件数)	0	2152kW(3件数)	0	0
鬼北町	650kW(150件数)	0	0	0	0	941kW(178件数)	14kW(2件数)	9137kW(152件数)	4430kW(141件数)	2318kW(9件数)	500kW(1件数)	1890kW(1件数)	0
愛南町	1212kW(274件数)	41kW(3件数)	41kW(3件数)	0	0	1626kW(278件数)	10kW(2件数)	24848kW(348件数)	12428kW(334件数)	900kW(4件数)	820kW(1件数)	10700kW(9件数)	0
市町村不明	546kW(146件数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(3) 再生可能エネルギー

再生可能エネルギー発電設備の導入状況等について（令和4年3月末現在）

バイオマス発電設備(バイオマス比率考慮あり)						
メタン発酵ガス	未利用木質		一般木質・ 農作物残さ	建設廃材	一般廃棄物・ 木質以外	
	2,000kW 未満	2,000kW 以上				
内子町	0	1115kW(1件数)	0	0	0	0
松山市	710kW(2件数)	0	0	0	4166kW(1件数)	
今治市	0	0	0	0	2054kW(1件数)	
宇和島市	0	0	0	0	1261kW(1件数)	
八幡浜市	0	0	0	0	0	
新居浜市	500kW(1件数)	0	0	0	0	
西条市	0	0	0	0	0	
大洲市	94kW(1件数)	0	0	0	0	
伊予市	0	0	0	0	0	
四国中央市	0	0	0	0	62920kW(1件数)	
西予市	0	0	0	0	0	
東温市	0	0	0	0	0	
上島町	0	0	0	0	0	
久万高原町	0	0	0	0	0	
松前町	0	0	0	0	0	
砥部町	0	0	0	0	0	
伊方町	0	0	0	0	0	
松野町	0	0	0	0	0	
鬼北町	0	0	0	0	0	
愛南町	0	0	0	0	0	
市町村不明	0	0	0	0	0	

内子町環境報告書 2021

編集・発行 内子町環境政策室
発行年月 令和4年3月